



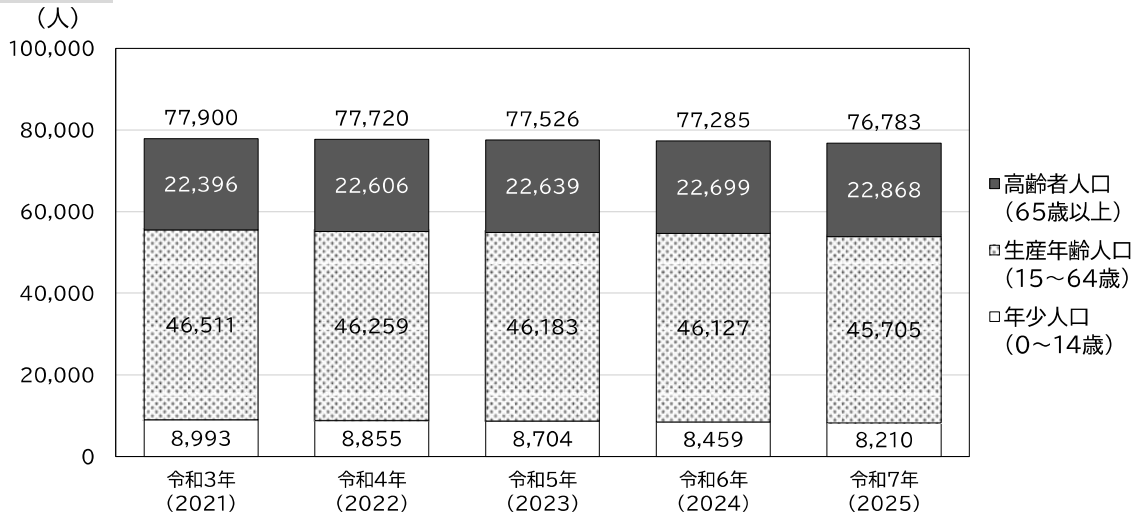
第2章 健康を取り巻く市の現状と課題

第1節 市の概況

(1) 人口の推移

本市の人口は、近年減少傾向となっており、令和7年(2025)では、76,783人と令和3年(2021)と比べて1,117人の減少となっています。

人口の推移

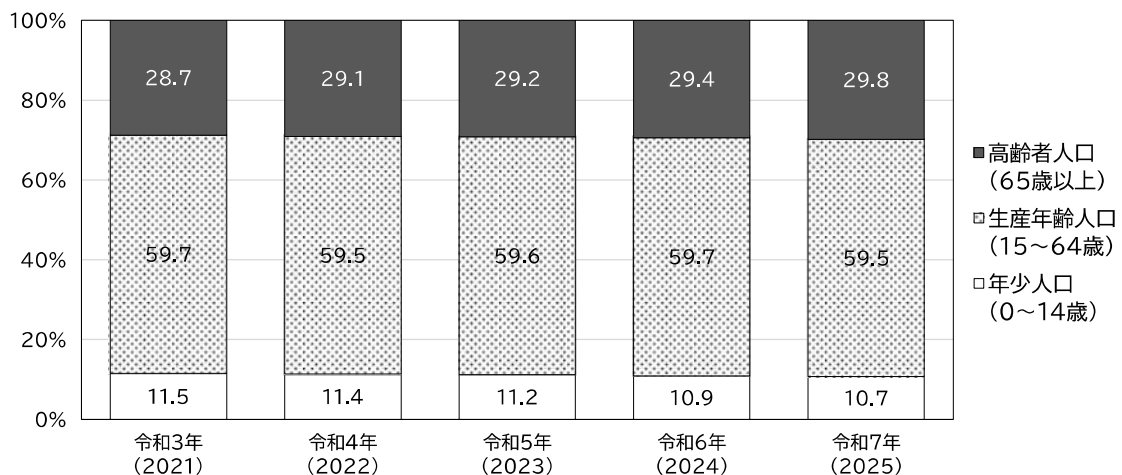


資料:住民基本台帳(各年1月1日現在)

(2) 人口構成の推移

人口構成をみると、年々少子高齢化の傾向が強くなっており、令和3年(2021)と令和7年(2025)を比べると、年少人口(0~14歳)は0.8ポイントの減少、高齢者人口(65歳以上)は1.1ポイント増加となっています。

人口構成の推移

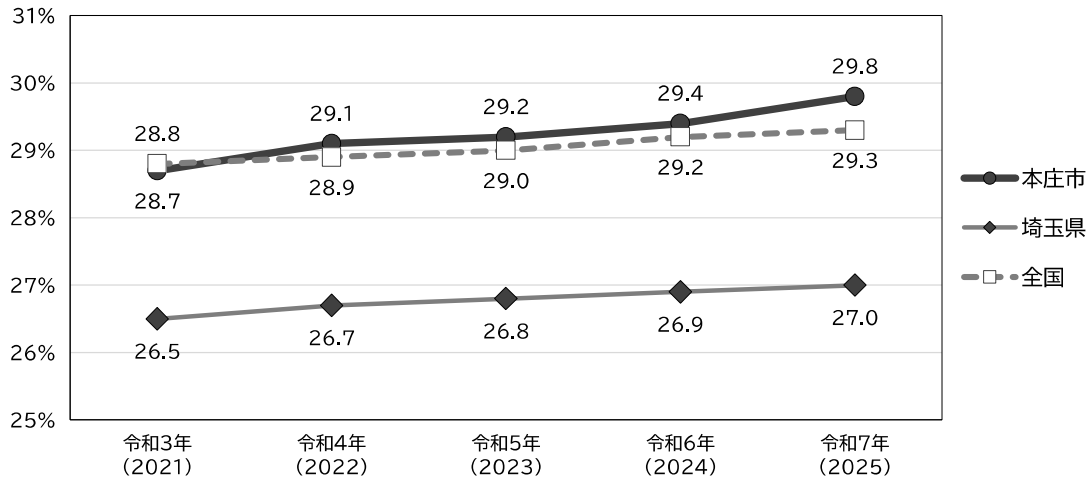


資料:住民基本台帳(各年1月1日現在)

(3) 高齢化率の推移

高齢化率は、本庄市、埼玉県、全国ともに上昇傾向となっています。令和7年(2025)では、本市の高齢化率は29.8%となっており、令和4年(2022)以降は、埼玉県、国に比べ高くなっています。

高齢化率の推移



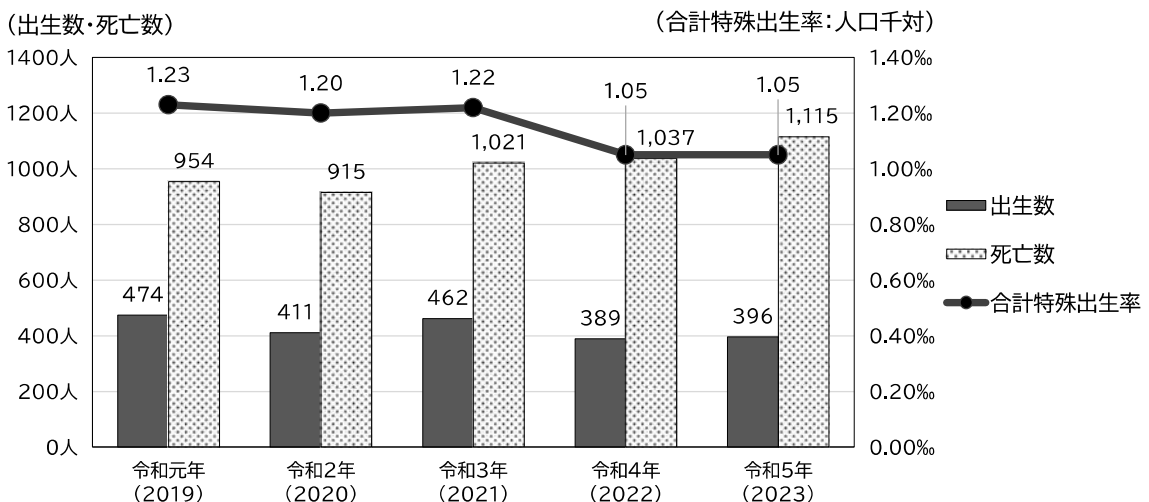
資料:住民基本台帳(各年1月1日現在)

(4) 自然増減の推移と合計特殊出生率

出生数は、令和元年(2019)以降、減少傾向となっており、令和5年(2023)では396人となっています。死亡数は、令和3年(2021)以降1,000人を超えています。

また、合計特殊出生率※(1人の女性が一生の間で生むこどもの数)は、令和5年(2023)では1.05となっています。

出生数・死亡数・合計特殊出生率の推移



資料:埼玉県保健統計年報

(5)健康寿命

本市の平均寿命は、男性が80.49年、女性が87.14年と、女性の方が約7年長くなっています。埼玉県と比較すると、男性では約1年短く、女性では、ほぼ同じ年数となっています。

また、65歳健康寿命[※]は、男性が17.35年、女性が20.80年となっており、女性の健康寿命[※]は男性よりも約3年長くなっています。

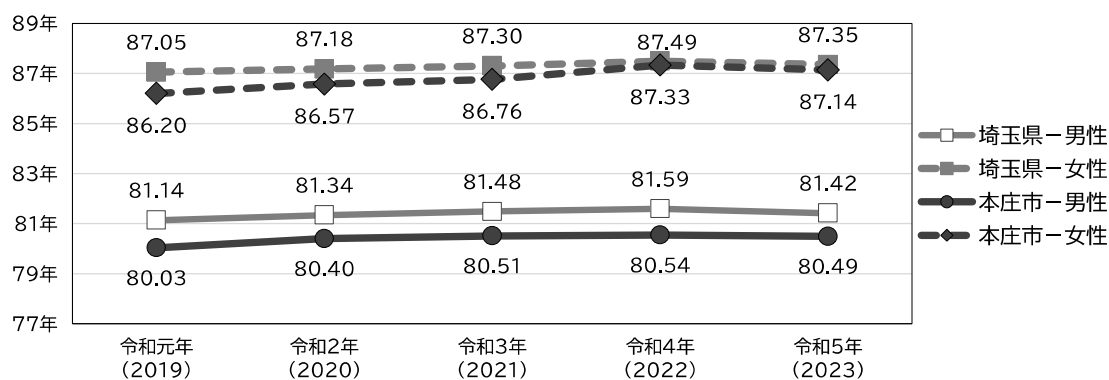
なお、本市の要介護認定率は16.4%と埼玉県よりやや低くなっています。性別で見ると男性は12.1%、女性は19.9%と埼玉県よりも低くなっています。

平均寿命・健康寿命・要介護期間・要介護認定率(令和5年(2023))

	総数		男性		女性	
	本庄市	埼玉県	本庄市	埼玉県	本庄市	埼玉県
平均寿命(0歳平均余命)	—	—	80.49	81.42	87.14	87.35
65歳平均余命	—	—	18.91	19.70	24.03	24.53
65歳健康寿命	—	—	17.35	18.03	20.80	20.99
65歳要介護期間	—	—	1.55	1.67	3.23	3.54
要介護認定率(65歳以上)	16.4%	16.9%	12.1%	12.9%	19.9%	20.1%

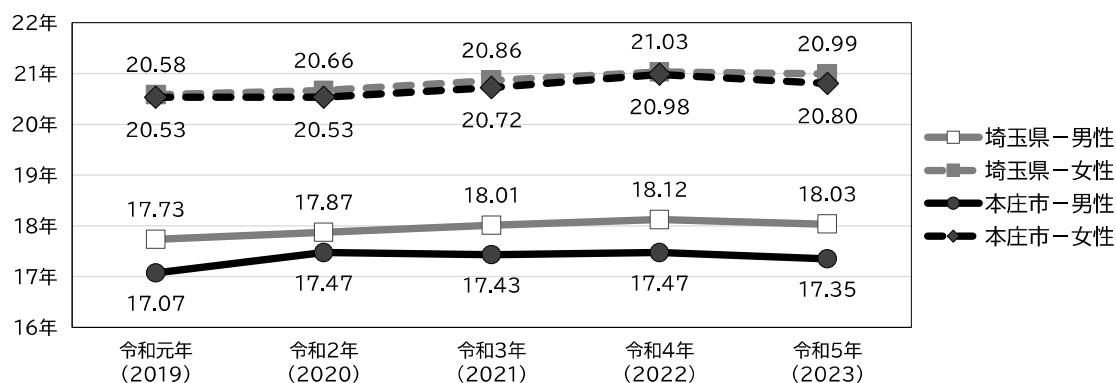
資料:埼玉県地域別健康情報

平均寿命(0歳平均余命)の推移



資料:埼玉県地域別健康情報

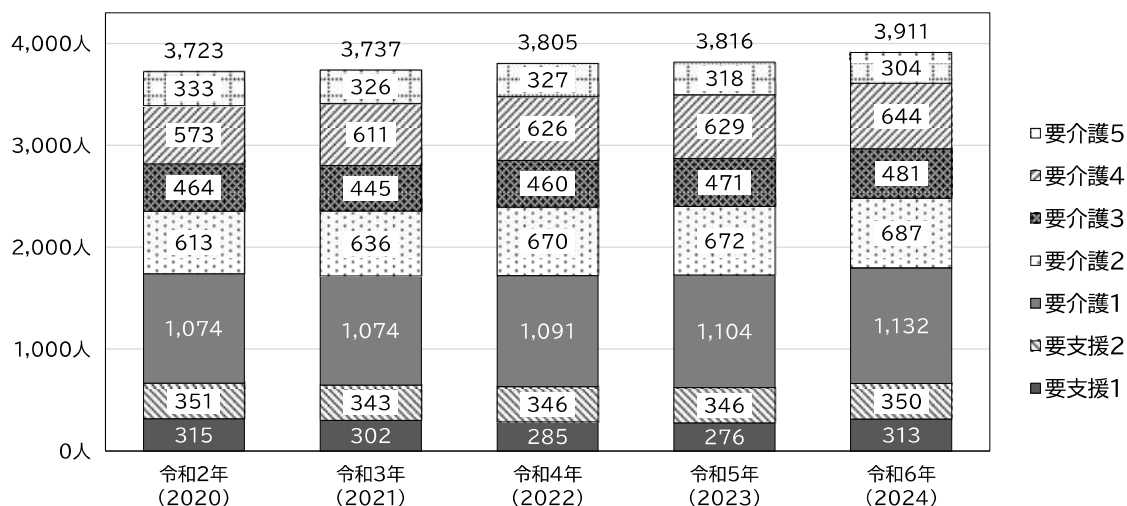
65歳健康寿命の推移



資料:埼玉県地域別健康情報

(6) 要支援・要介護認定者の状況

本市の要支援・要介護認定*者数は、毎年増加しており、令和6年(2024)では、3,911人となっています。令和2年(2020)と令和6年(2024)とで比べると、要介護1から要介護4まで認定者数が増加しています。



資料：介護保険事業状況報告(令和4年(2022)まで年報、以降は各年4月分)



(7)死亡の状況

本市の死因は「悪性新生物(がん)」、「心疾患(高血圧性を除く)」、「肺炎」の順に多くなっており、生活習慣病関連の疾病が5割を占めています。

埼玉県地域別健康情報によると、15～44歳では「自殺」が第1位となり、特に青年期(15～24歳)では、死因の7割を占めています。また、中年期以上では「悪性新生物」の順位が高く、特に中年期(45～64歳)では、死因の3割以上を占めています。

年齢別死因順位【令和元年(2019)～令和5年(2023)】

	幼年期 (0～4歳)	少年期 (5～14歳)	青年期 (15～24歳)	壮年期 (25～44歳)	中年期 (45～64歳)	高齢期 (65歳以上)	総数
第1位	周産期に発生した病態 33.3%		自殺 73.3%	自殺 24.4%	悪性新生物 33.3%	悪性新生物 24.3%	悪性新生物 24.8%
第2位			不慮の事故 13.3%	心疾患(高血圧性を除く) 14.6%	心疾患(高血圧性を除く) 17.9%	心疾患(高血圧性を除く) 17.0%	心疾患(高血圧性を除く) 16.9%
第3位			脳血管疾患 6.7%	脳血管疾患 14.6%	脳血管疾患 7.4%	肺炎 11.6%	肺炎 10.9%
第4位				悪性新生物 12.2%	自殺 5.0%	脳血管疾患 7.9%	脳血管疾患 7.9%
第5位				糖尿病 4.9%	肝疾患 4.1%	老衰 5.5%	老衰 5.0%
第6位				肝疾患 4.9%	肺炎 3.6%	誤嚥性肺炎 2.6%	誤嚥性肺炎 2.4%
第7位				不慮の事故 4.9%	大動脈瘤及び解離 3.3%	腎不全 2.1%	不慮の事故 2.0%
第8位				大動脈瘤及び解離 2.4%	不慮の事故 2.8%	不慮の事故 1.9%	腎不全 1.9%
	その他 66.7%	その他 100%	その他 6.7%	その他 17.1%	その他 22.6%	その他 27.1%	その他 28.1%

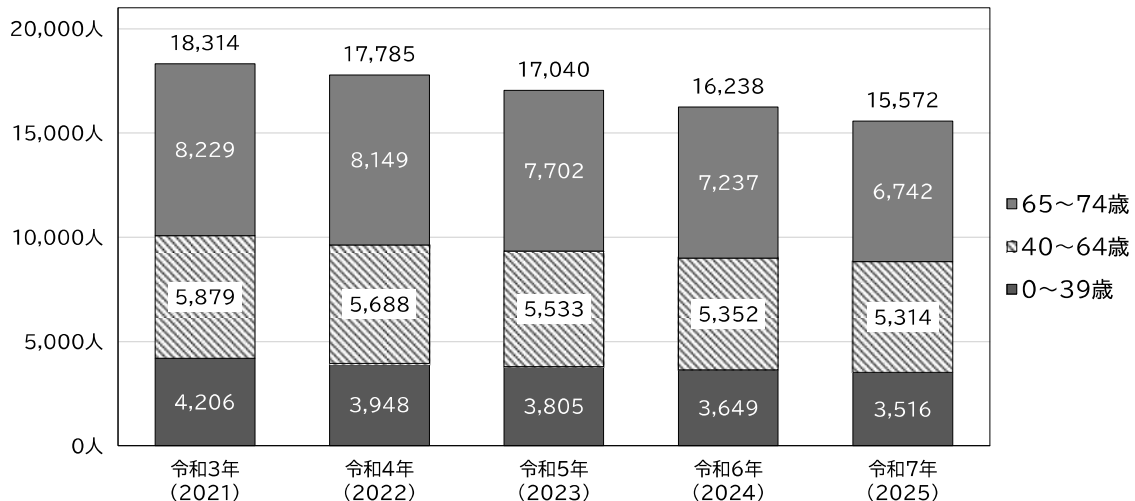
※旧分類の「死因順位の分類項目」による

資料：埼玉県地域別健康情報

(8)本市の国民健康保険の状況

本市の国民健康保険加入者数は、毎年減少しており、令和7年(2025)では15,572人となっています。年齢別で見ると、65～74歳は6,742人と約4割を占めています。

国民健康保険加入者数の推移

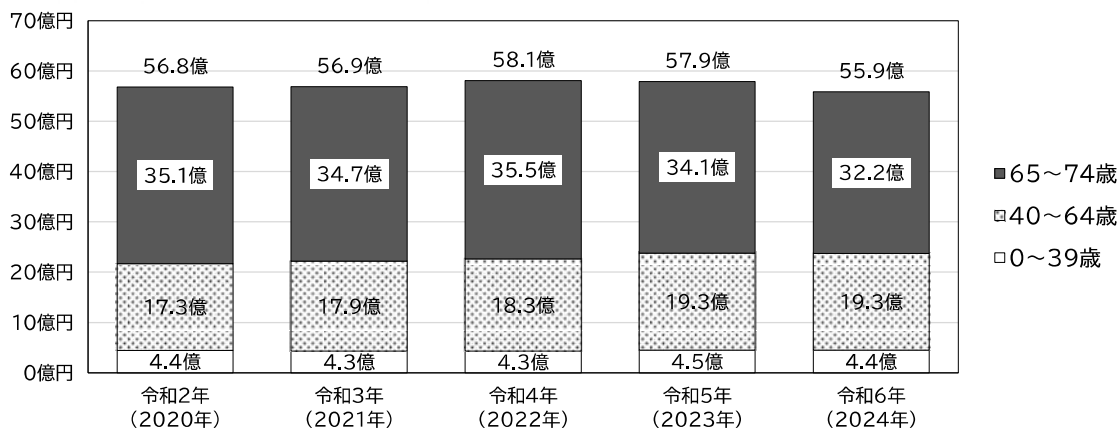


資料:年齢別男女被保険者数調べ(医療分)全体、各年3月31日時点

本市の国民健康保険加入者における国民健康保険医療費は、令和6年(2024)では55.9億円となっています。年齢別で見ると、65～74歳は32.2億円と半数以上を占めています。

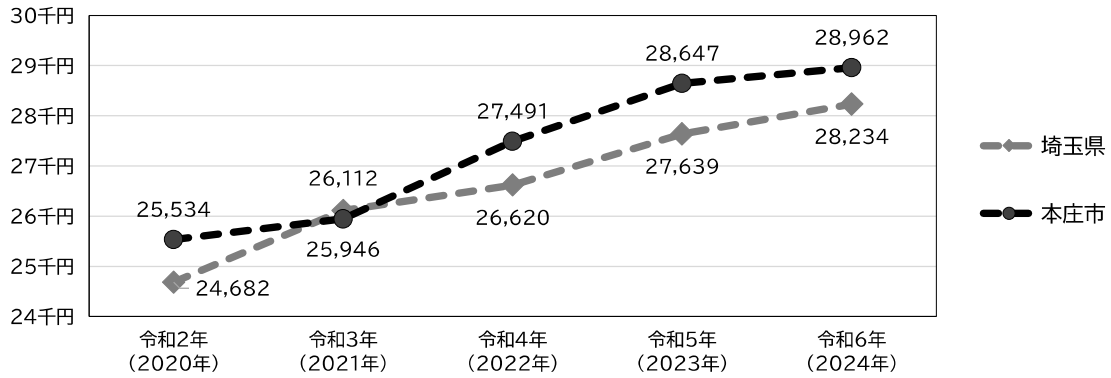
1人当たりの医療費の推移をみると、毎年増加しており、月額では、令和4年(2022)に埼玉県を上回り、令和6年(2024)では28,962円となっています。年間では、令和4年(2022)に埼玉県を上回り、令和6年(2024)では347,544円となっています。

国民健康保険加入者の医療費の推移



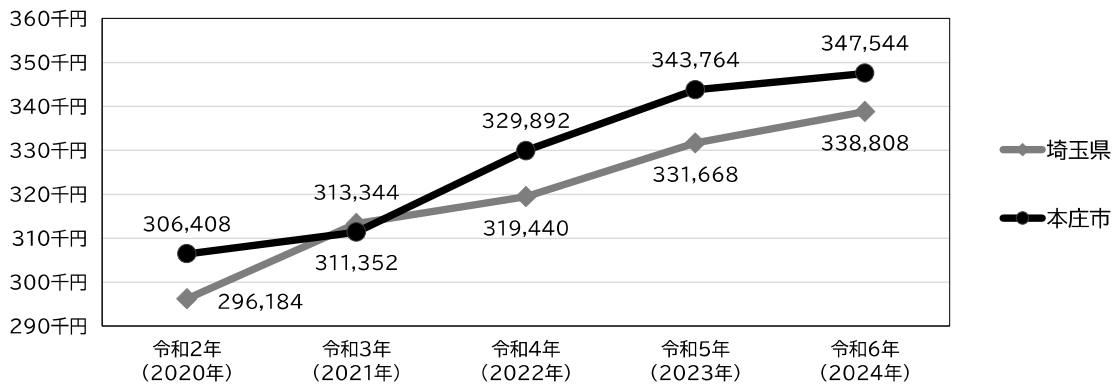
資料:KDB システム「疾病別医療費分析(大分類)」

1人当たりの国民健康保険医療費の推移(月額)



資料:KDB システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

1人当たりの国民健康保険医療費の推移(年間)



資料:KDB システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」



第2節 健康づくりに関するアンケート調査結果抜粋

この調査は、第3期本計画策定のため、市民の健康状況を把握し、基礎資料とするために実施しました。

調査概要

【調査期間】 令和6年10月15日(火)～令和6年10月31日(木)

- 【調査対象】
- ① 本庄市内在住の20歳以上の方の中から、無作為に3,000名を抽出
 - ② 本庄市内公立小中学校16校(小学5年生、中学2年生)の児童生徒1,232人
 - ③ 本庄市内在住の就学前児童(3歳児健康診査※対象者)の保護者470人

- 【調査方法】
- ① 郵送により送付し、返送またはインターネットによる回答
 - ② 教育委員会を通して配布し、回答
 - ③ 郵送により送付し、返送またはインターネットによる回答

【配布数及び回答数】

	配布数	回収数	回収率
① 20歳以上市民	3,000	1,245	41.5%
② 小・中学生	1,232	1,111	90.2%
③ 就学前児童の保護者	470	284	60.4%

【調査結果の見方】

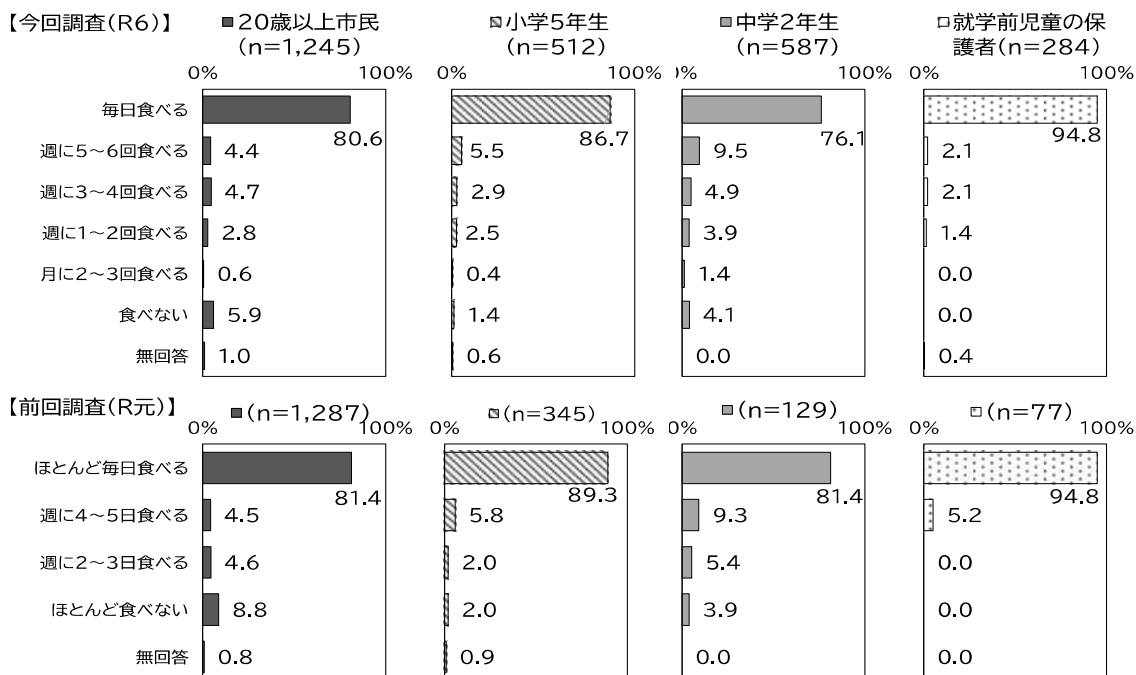
- ㊦は20歳以上市民調査、㊦は小学5年生調査、㊦は中学2年生調査、㊦は就学前児童(3歳児健康診査対象者)の保護者調査の結果を示す。
- 「n」とは回答者数(母数)を示している。
- 比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下第二位を四捨五入し算出しているため、合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答については、回答者数を基数として百分率(%)で示している。したがって、合計値が100%を超える場合がある。
- 項目によっては回答の対象を限定している問があり、対象外を非該当として除外し算出しているため、n値が回収数と異なる場合がある。
- 性別、年代別などによるクロス集計について、質問の回答から属性を分類している。ただし、回答において無回答の方がいるため、属性の回答者数の合計は全体の回答者数と一致しない。
- 小・中学生の回収数は1,111件だが、小学5年生と中学2年生のn値の合計は、小中学生どちらかを聞いている問を無回答としている12件を除外しているため一致しない。



(1)食生活について

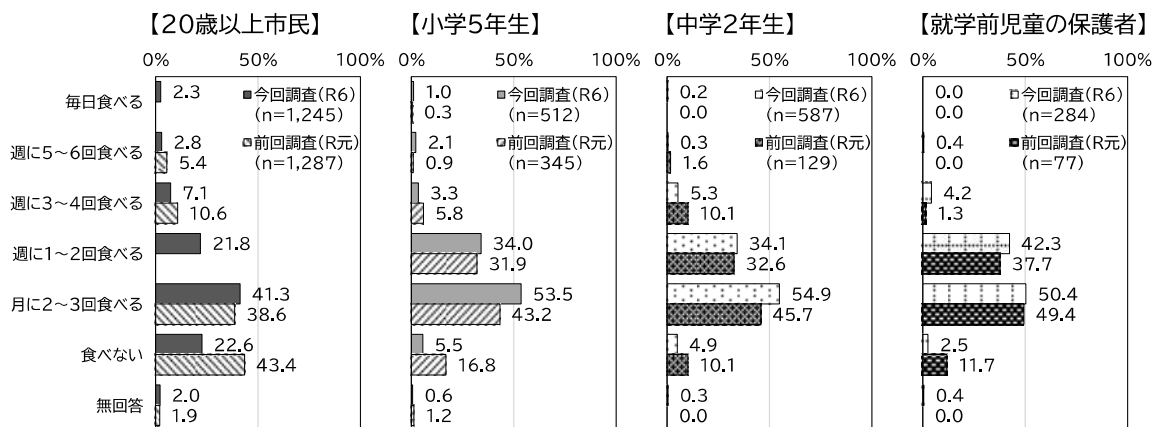
1) 朝食の摂食状況 市小中保

朝食については、いずれも「毎日食べる」がいずれの年代でほとんどを占めていますが、就学前児童の保護者は94.8%と9割を占めているのに対し、20歳以上市民は80.6%、小学5年生は86.7%、中学2年生では76.1%と割合が低くなっています。



2) 外食等の頻度 市小中保

レストランなどでの外食、コンビニエンスストアの弁当、ファストフードについて、「月に2~3回食べる」の割合が、20歳以上市民で41.3%、小学5年生で53.5%、中学2年生で54.9%、就学前児童の保護者で50.4%と最も高くなっています。1回以上『食べる』の割合は、20歳以上市民で75.4%、小学5年生で93.9%、中学2年生で94.8%、就学前児童の保護者で97.1%となっています。

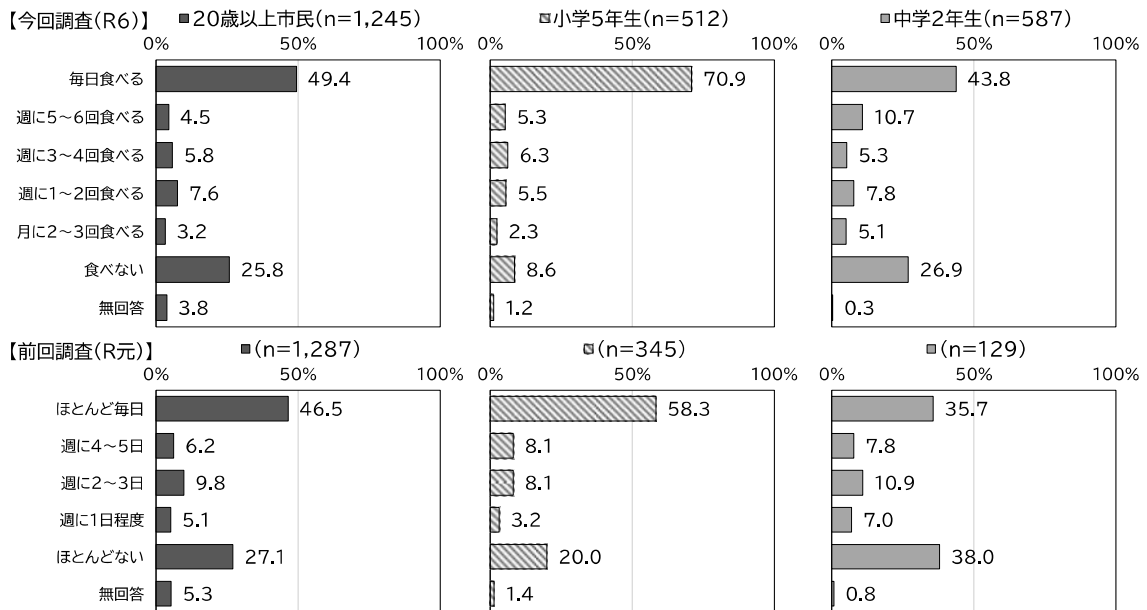


3) 共食の頻度 市小中

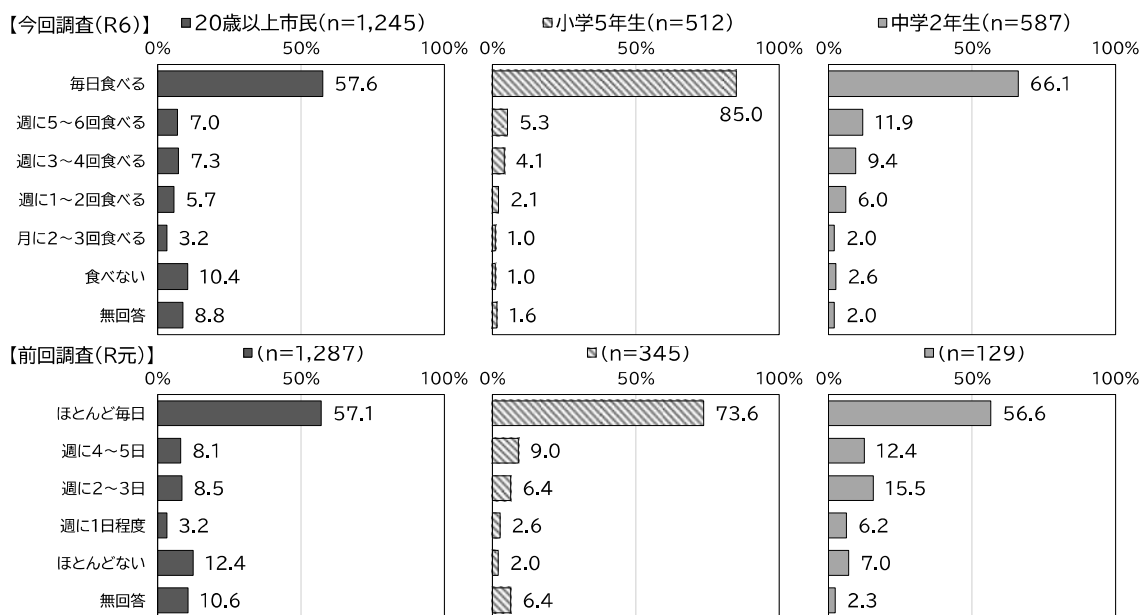
家族等一緒に食べることについて、「毎日食べる」の割合が、朝食では「毎日食べる」がいずれの年代で最も高くなっていますが、小学5年生の70.9%に対し、20歳以上市民で49.4%、中学2年生で43.8%と割合が低くなっており、「食べない」においては20歳以上市民が25.8%、中学2年生では26.9%となっています。夕食でも「毎日食べる」がいずれの年代で最も高くなっており、小学5年生の85.0%に対し、20歳以上市民で57.6%、中学2年生で66.1%と割合が低くなっています。

また、1週間あたりの共食※回数(朝・夕14回中)を回答から算出すると、20歳以上市民では8.5回、小学5年生では12.0回、中学2年生では9.7回となっています。

朝食の共食

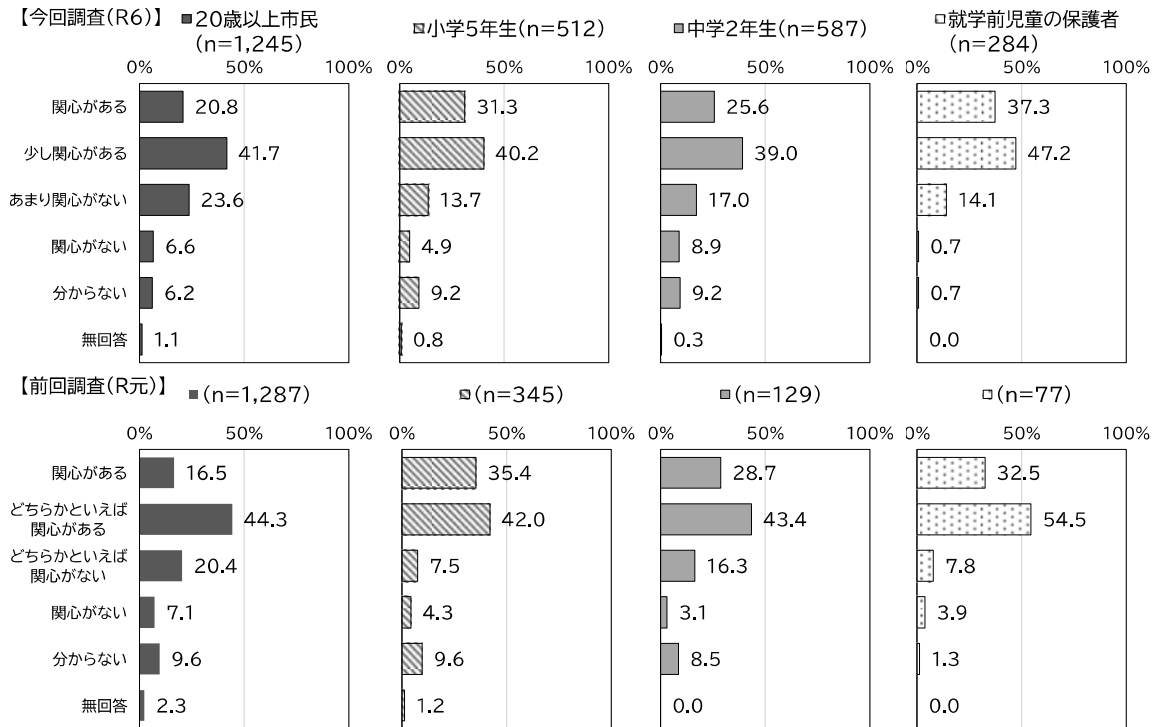


夕食の共食



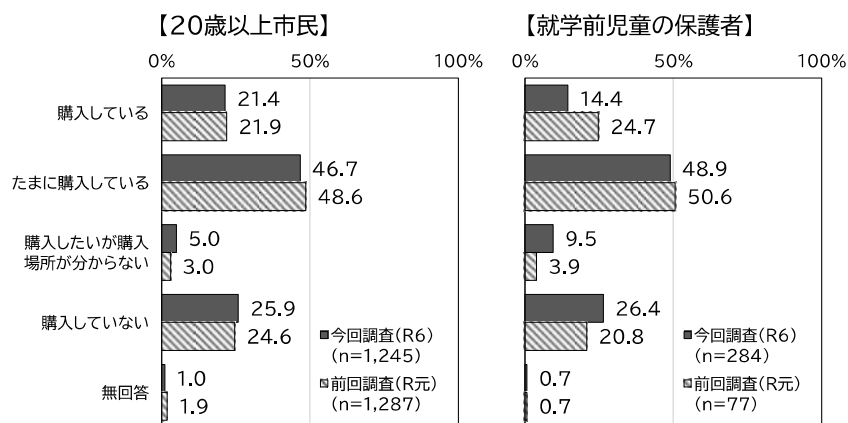
4) 食育の関心 市小中保

食育に関心があるかどうかについて、「関心がある」と「少し関心がある」を合わせた『関心がある』の割合は、20歳以上市民で62.5%、小学5年生で71.5%、中学2年生で64.6%、就学前児童の保護者で84.5%となっています。



5) 本庄市産農産物の購入 市保

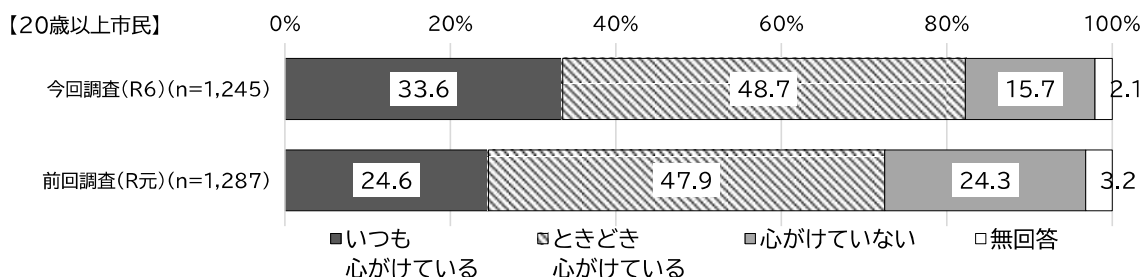
地産地消[※]の取組として、本庄市産の農産物の購入について、「購入している」と「たまに購入している」を合わせた『購入している』の割合は、20歳以上市民で68.1%、就学前児童の保護者で63.3%と6割を超えています。「購入していない」の割合は、20歳以上市民で25.9%、就学前児童の保護者で26.4%と全体の約4分の1を占めています。



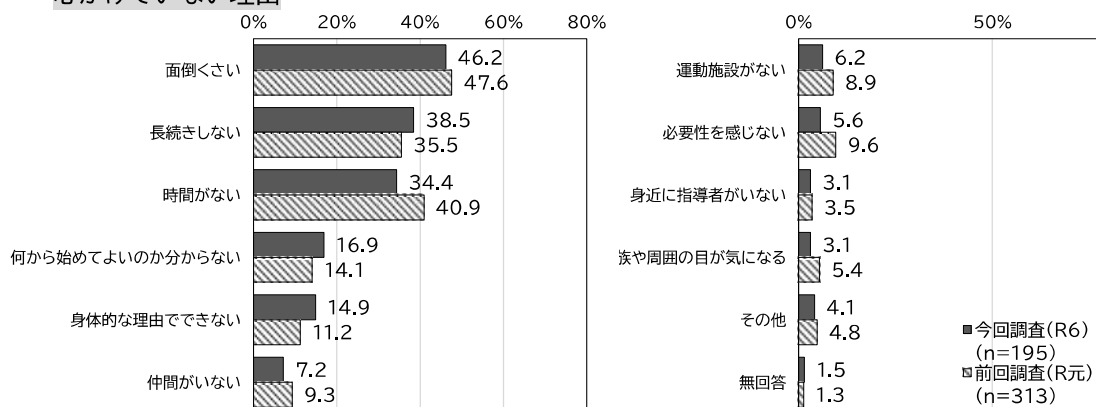
(2) 身体活動・運動について

1) 運動の意識 市

運動を心がけているかについて、20歳以上市民では、「いつも心がけている」の割合が33.6%、「ときどき心がけている」割合が48.7%とこれらを合わせた『心がけている』の割合は82.3%となっています。「心がけていない」の割合15.7%のうち、心がけていない理由については、「面倒くさい」の割合が46.2%と最も高く、次いで「長続きしない」は38.5%、「時間がない」が34.4%と続きます。



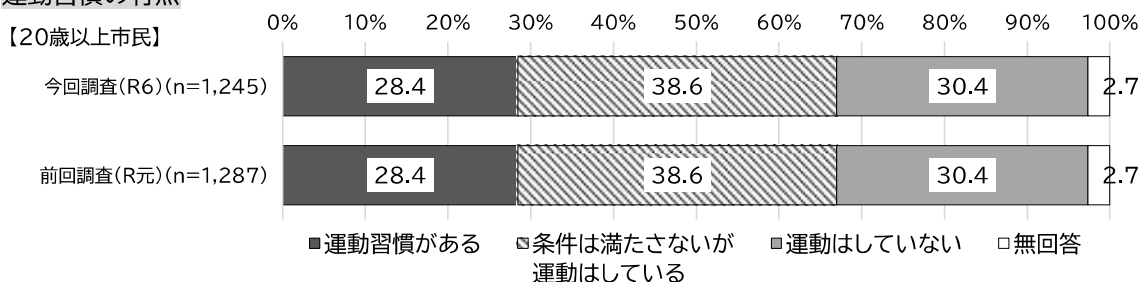
心がけていない理由



2) 運動の習慣 市小中保

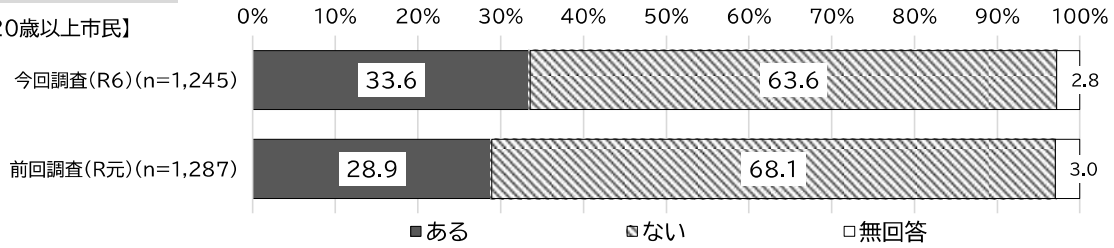
運動の習慣について、20歳以上市民では、「運動習慣がある」が28.4%、「条件を満たさないが運動はしている」が38.6%になっており、これらを合わせた『運動をしている』が67.0%と半数を超えています。また、ウォーキング習慣の有無については、「ある」が33.6%に対し、「ない」が63.6%になっており、前回調査よりも約5ポイント増加しています。

運動習慣の有無



ウォーキング習慣

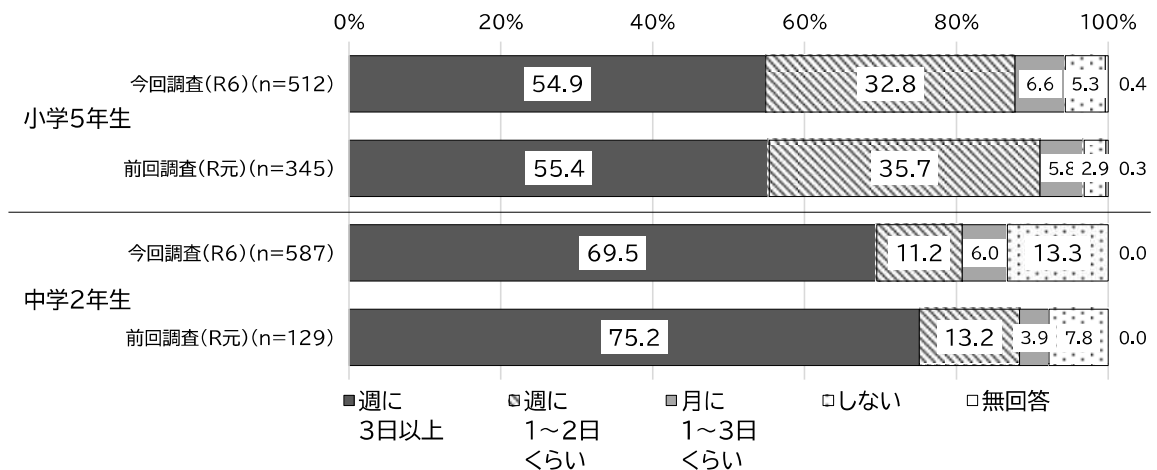
【20歳以上市民】



こどもの運動習慣について、小学5年生では「週に3日以上」の割合が54.9%と最も高く、次いで「週に1~2日くらい」が32.8%、「月に1~3日くらい」が6.6%となっています。中学2年生では、「週に3日以上」の割合が69.5%と最も高く、次いで「しない」が13.3%、「週に1~2日くらい」が11.2%となっています。「週に3日以上」と「しない」の割合が、中学2年生が小学5年生よりも上回っています。

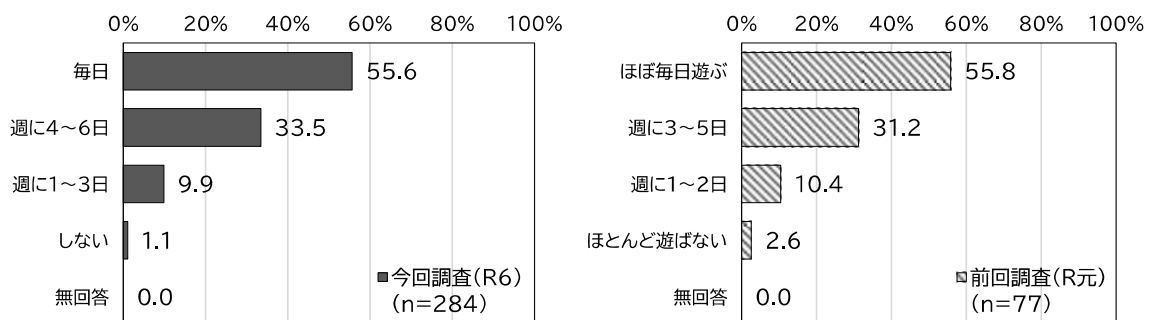
就学前児童の保護者では、こどもの体を動かした遊びについて「毎日」が55.6%と最も高く、次いで「週に4~6日」が33.5%、「週に1~3日」が9.9%となっています。

運動(スポーツや外遊びなど)の頻度(学校の体育の授業を除く)



体を動かした遊びの頻度

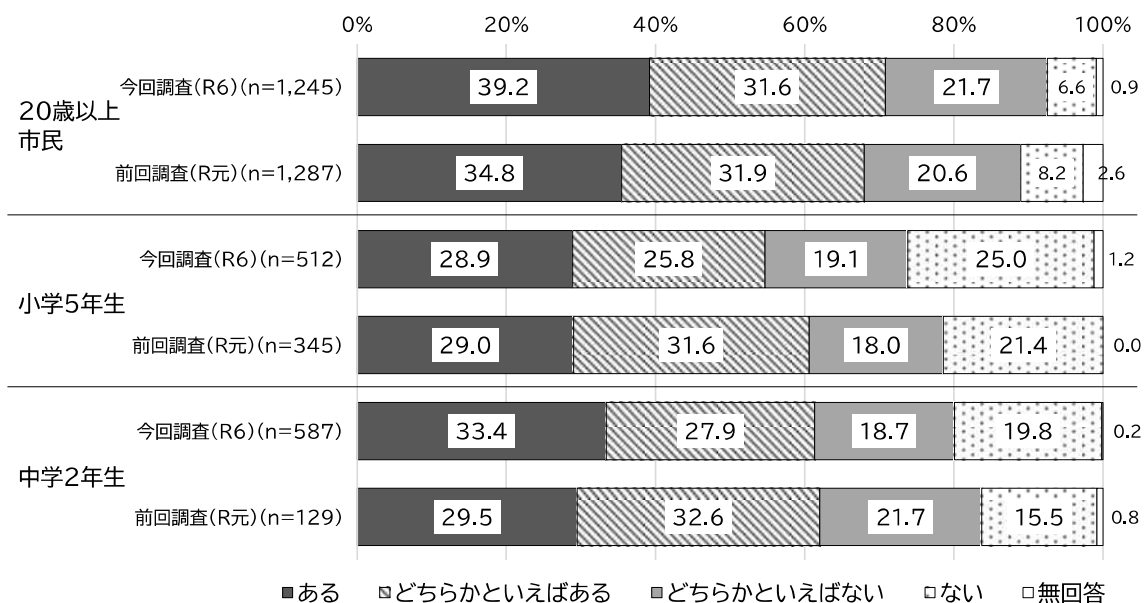
【就学前児童の保護者】



(3) 休養・こころの健康について

1) ストレスの有無と原因・解消方法 市小中

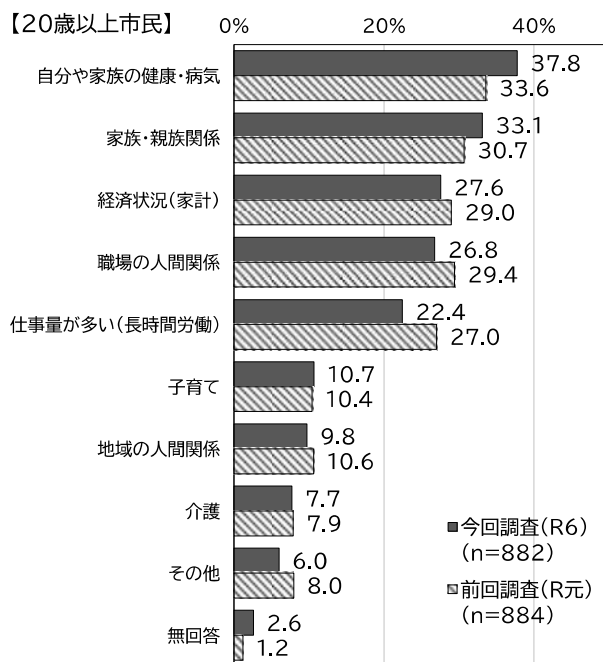
日常生活の中でのストレスについて、「ある」と「どちらかといえばある」を合わせた『ある』の割合が、20歳以上で70.8%、小学5年生で54.7%、中学2年生で61.3%といずれも半数を超えています。

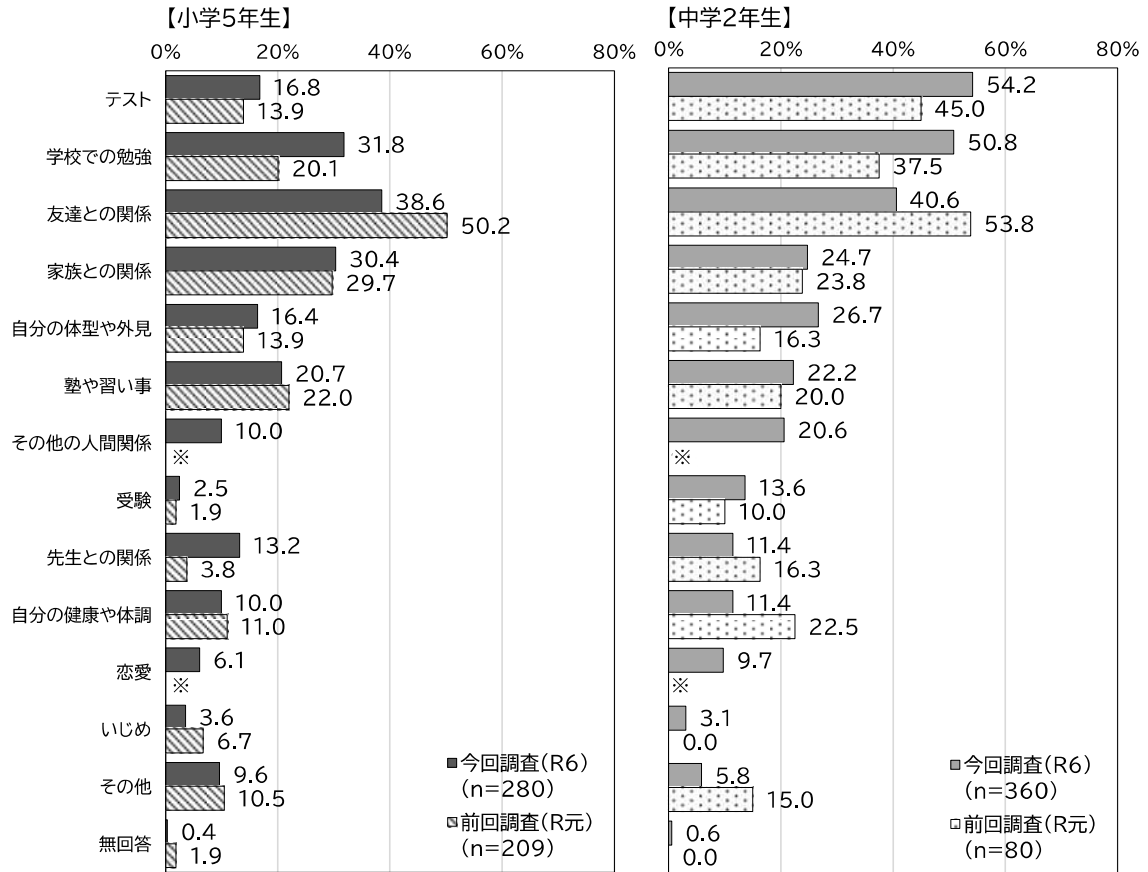


2) ストレスの原因 市小中

ストレスの原因については、20歳以上市民では、「自分や家族の健康・病気」の割合が37.8%と最も高く、次いで「家族・親族関係」が33.1%、「経済状況(家計)」が27.6%、「職場の人間関係」が26.8%と続きます。

小学5年生では、「友達との関係」の割合が38.6%と最も高く、次いで「学校での勉強」が31.8%、「家族との関係」が30.4%、中学2年生では、「テスト」が54.2%と最も高く、次いで「学校での勉強」が50.8%、「友達との関係」が40.6%と続きます。





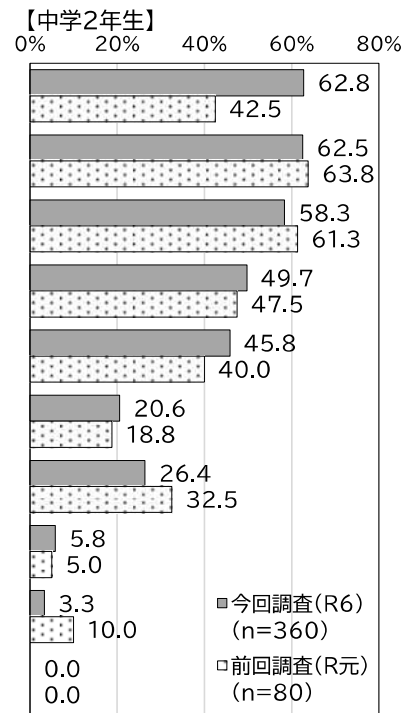
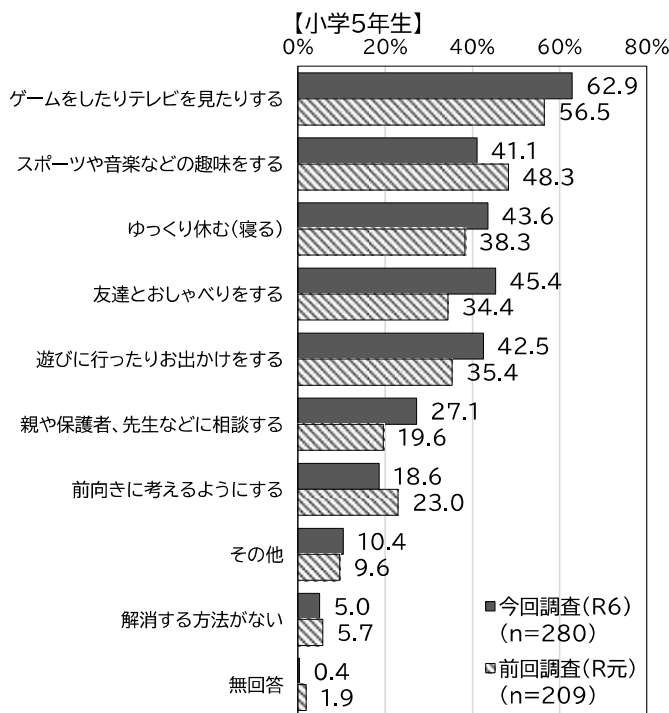
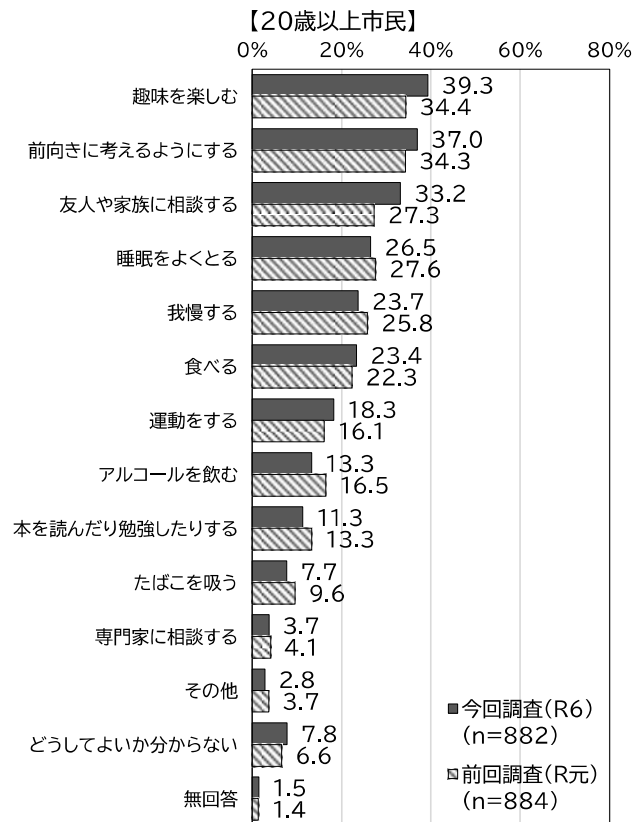
※数値のない項目は、前回の調査において、回答選択肢がなかったもの

3) ストレスの解消方法 市小中

ストレスの解消法については、20歳以上市民では、「趣味を楽しむ」の割合が39.3%と最も高く、次いで「前向きに考えるようにする」が37.0%、「友人や家族に相談する」が33.2%と続きます。

小学5年生では、「ゲームをしたりテレビを見たりする」の割合が62.9%と最も高く、次いで「友達とおしゃべりをする」が45.4%、「ゆっくり休む(寝る)」が43.6%、「遊びに行ったりお出かけをする」が42.5%、「スポーツや音楽などの趣味をする」が41.1%と続きます。

中学2年生では、「ゲームをしたりテレビを見たりする」の割合が62.8%と最も高く、次いで「スポーツや音楽などの趣味をする」が62.5%、「友達とおしゃべりをする」が49.7%、「遊びに行ったりお出かけをする」が45.8%と続きます。



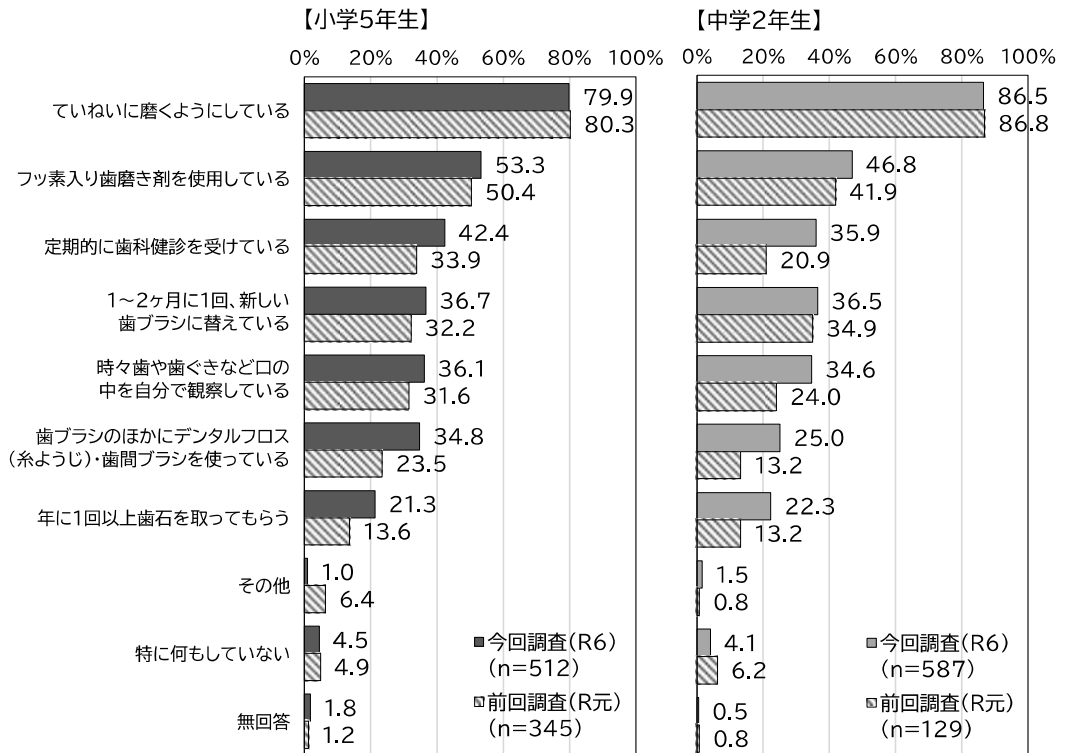
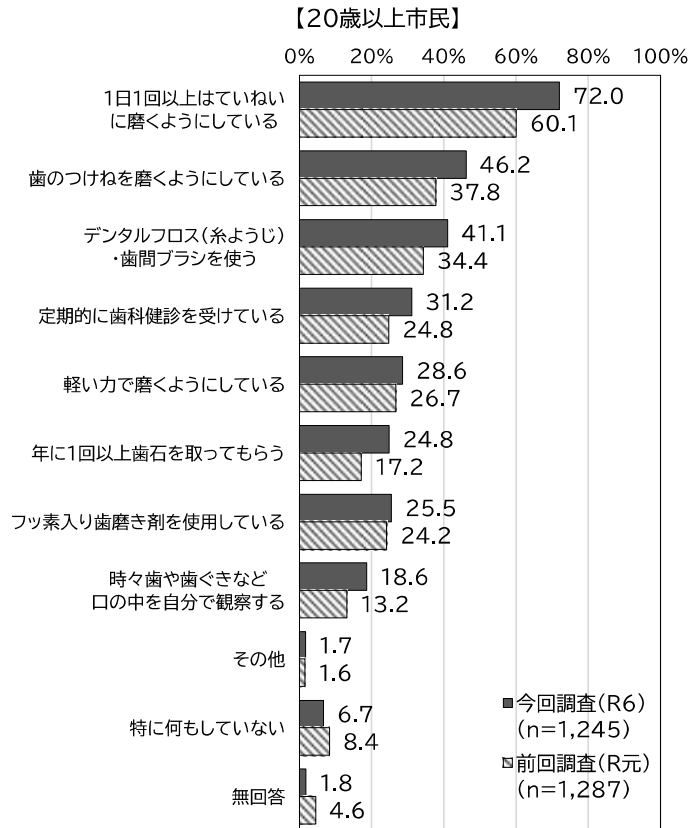
(4) 歯と口腔の健康について

1) 歯を磨くときに気をつけていること 市小中

歯を磨くときに気をつけていることについて、20歳以上市民では、「1日1回以上はていねいに磨くようにしている」の割合が72.0%と最も高く、次いで「歯のつけねを磨くようにしている」が46.2%、「デンタルフロス(糸ようじ)・歯間ブラシを使う」が41.1%と続きます。

小学5年生では、「ていねいに磨くようにしている」の割合が79.9%と最も高く、次いで「フッ素入り歯磨き剤を使用している」が53.3%、「定期的に歯科健診を受けている」が42.4%と続きます。

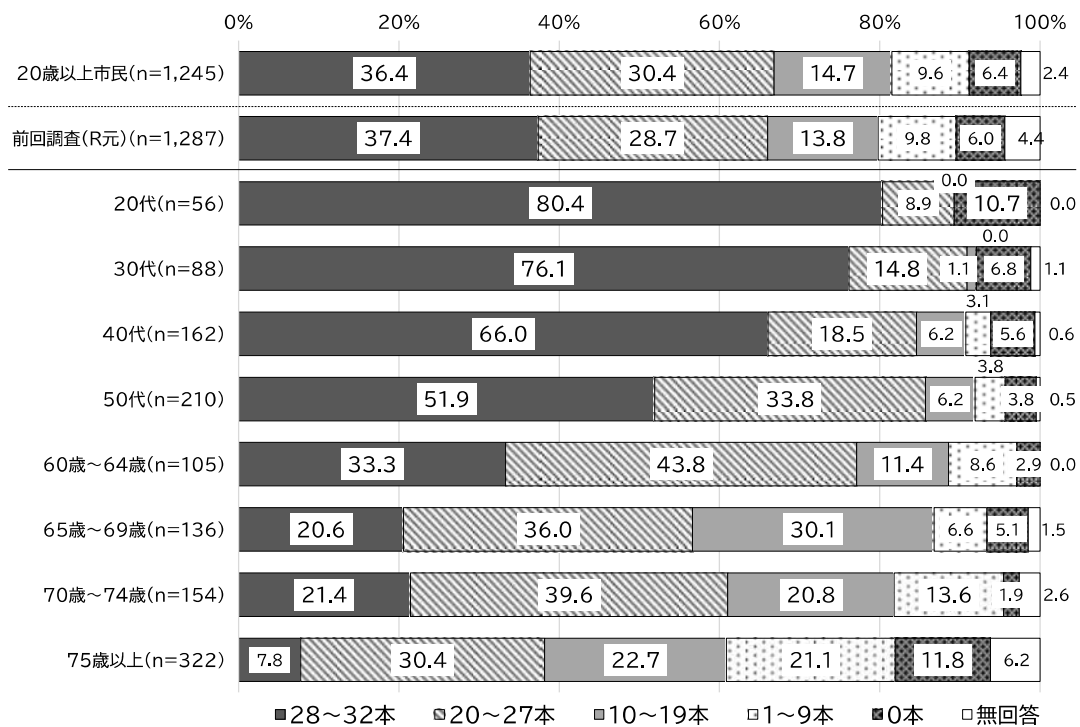
中学2年生では、「ていねいに磨くようにしている」の割合が86.5%と最も高く、次いで「フッ素入り歯磨き剤を使用している」が46.8%と続きます。



2) 歯の本数 市

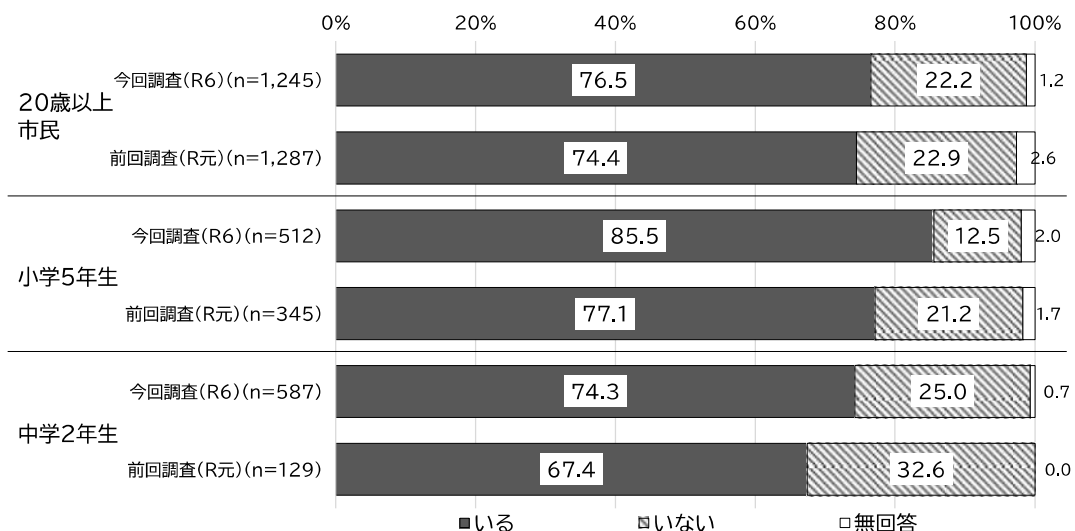
自身の歯の本数については、「28～32本」の割合が36.4%と最も高く、次いで「20～27本」が30.4%、「10～19本」が14.7%と続きます。

年代別にみると、20代が80.4%、30代が76.1%、40代が66.0%、50代が51.9%と「28～32本」の割合が最も高くなっていますが、それ以降の年代では、60～64歳が43.8%、65～69歳が36.0%、70～74歳が39.6%、75歳以上が30.4%と「20～27本」の割合が高くなっており、年齢が上がるほど本数が少ない傾向となっています。また、20本以上歯がある人の割合は60歳以上では58.2%、70歳以上では49.6%となっています。



3) かかりつけ歯科医 市小中

かかりつけ歯科医については、「いる」の割合が20歳以上市民では76.5%、小学5年生では85.5%、中学2年生では74.3%となっています。

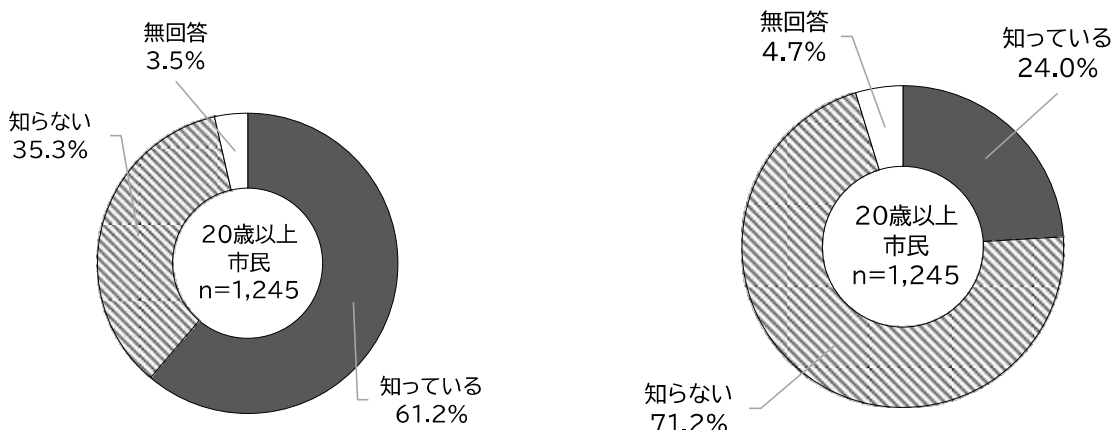


4) 歯と口腔に関する用語の認知 市

歯と口腔に関する用語について、『8020運動*』では、「知っている」の割合は61.2%、「知らない」は35.3%となっています。『オーラルフレイル*』では、「知っている」が24.0%、「知らない」が71.2%となっています。

8020運動

オーラルフレイル

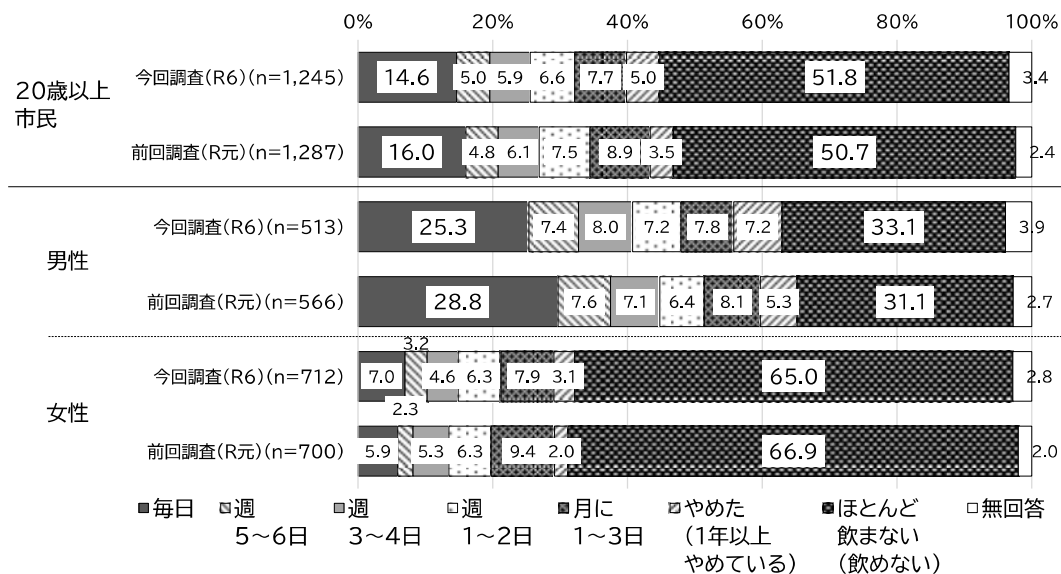


(5) アルコール・たばこについて

1) 飲酒状況 市

アルコール類の摂取については、「ほとんど飲まない(飲めない)」の割合が51.8%と最も多く、次いで「毎日」が14.6%と続きます。

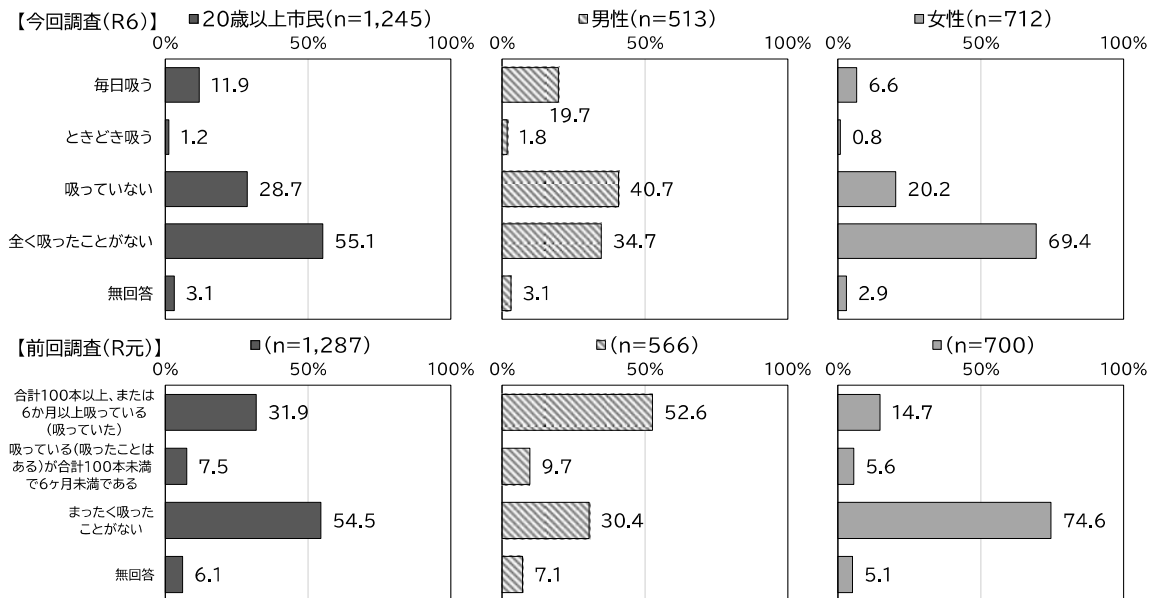
男女別でみると、「毎日」の割合が男性は25.3%に対し、女性は7.0%と下回っています。一方、「ほとんど飲まない(飲めない)」の割合が男性は33.1%に対し、女性は65.0%と上回っています。



2) 喫煙状況 市

喫煙状況については、「全く吸ったことがない」の割合が55.1%と最も多く、ついで「吸っていない」が28.7%と続きます。

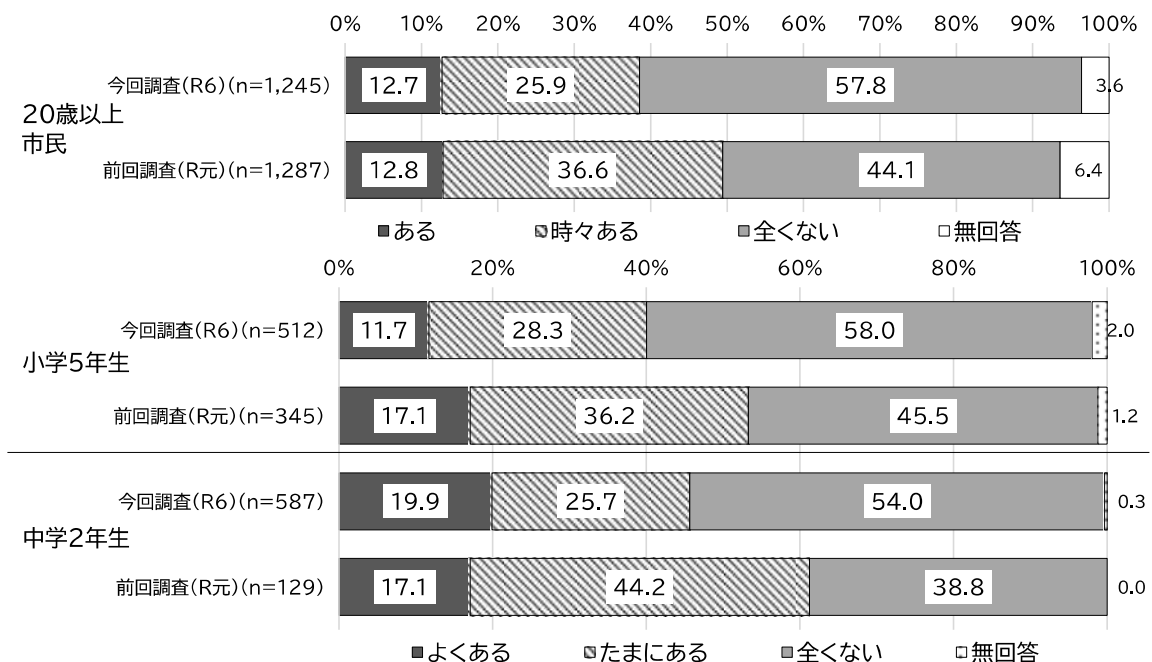
男女別でみると、「毎日吸う」の割合が男性は19.7%に対し、女性は6.6%と下回っています。また、「吸っていない」の割合も男性は40.7%に対し、女性は20.2%と下回っています。一方、「全く吸ったことがない」の割合が男性は34.7%に対し、女性は69.4%と上回っています。



3) 家族や他人のたばこの煙を吸う機会 市小中

家族や他人のたばこの煙を吸う機会があるかについては、いずれの年代も「全くない」の割合がもっとも高く、20歳以上市民では57.8%、小学5年生では58.0%、中学2年生では54.0%と半数を超えています。

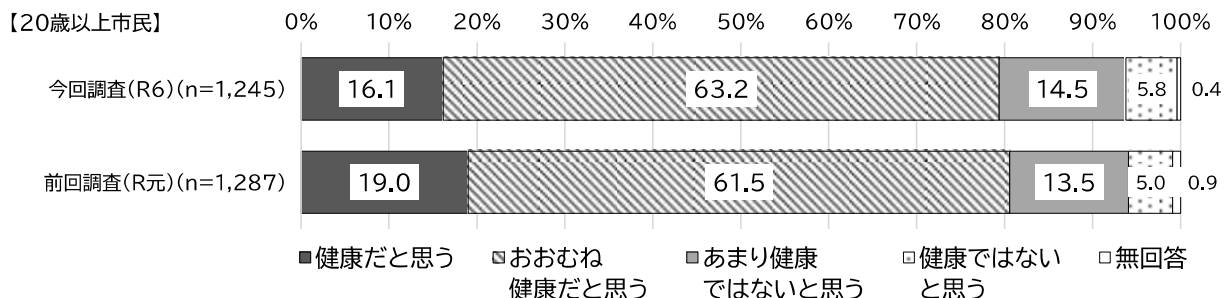
一方、「ある」と「時々ある/たまにある」を合わせた『ある』の割合は、20歳以上市民では38.6%、小学5年生では40.0%、中学2年生では45.6%となっています。



(6) 健康管理について

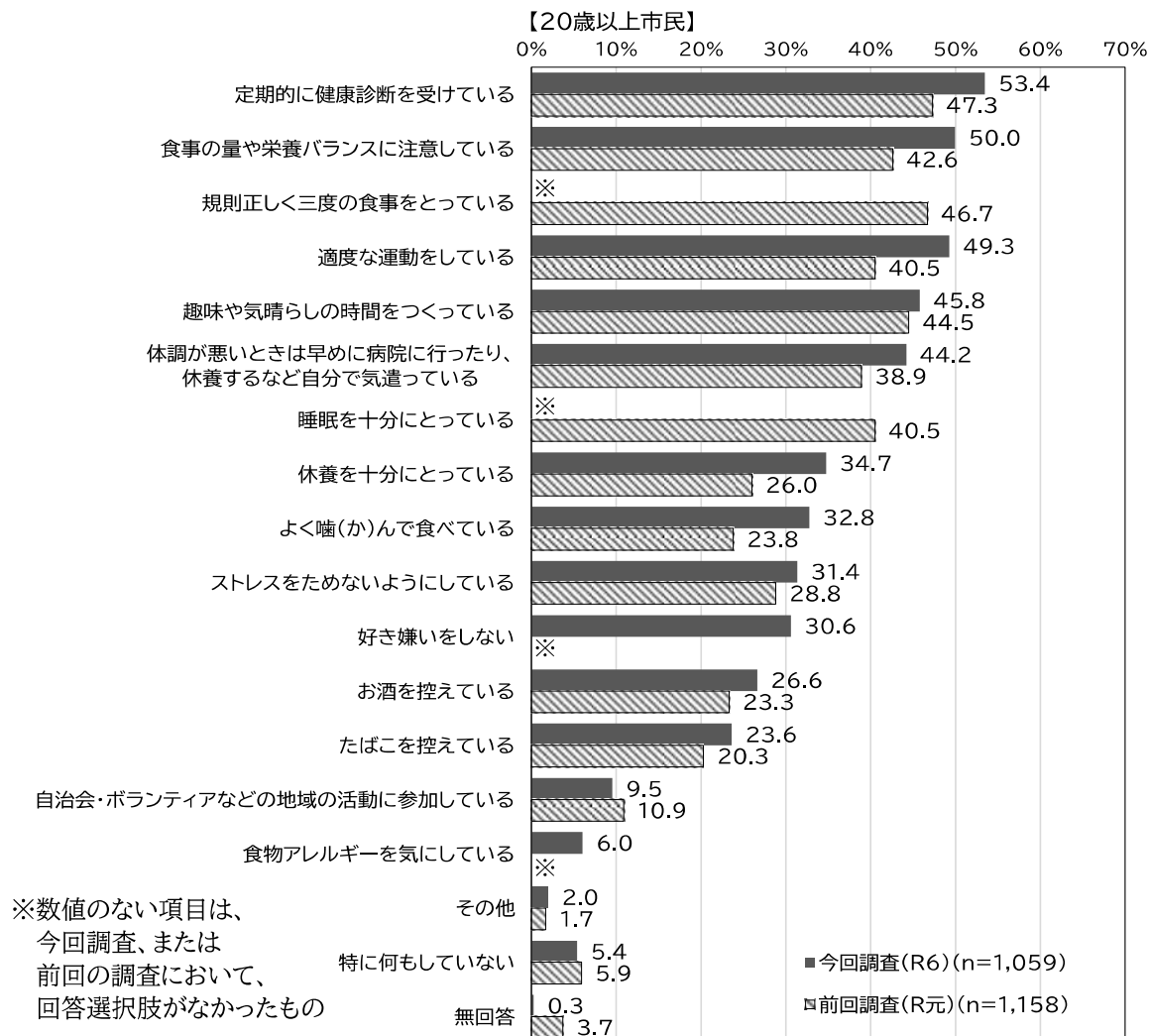
1) 健康状態について 市

自身の健康状態について、「健康だと思う」の割合が16.1%、「おおむね健康だと思う」が63.2%となっており、それらを合わせた『健康だと思う』の割合は約8割となっています。



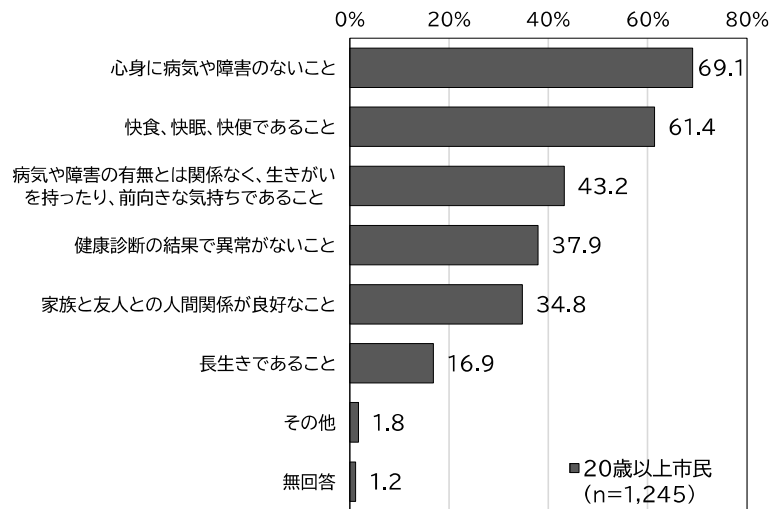
2) 健康づくりのためにやっていること 市

健康に気を配っている方で健康づくりのためにやっていることとして、「定期的に健康診断を受けている」の割合が53.4%と最も高く、次いで「食事の量や栄養バランスに注意している」が50.0%、「適度な運動をしている」が49.3%、「趣味や気晴らしの時間をつくっている」が45.8%と続きます。



3) 「健康な状態」について 市

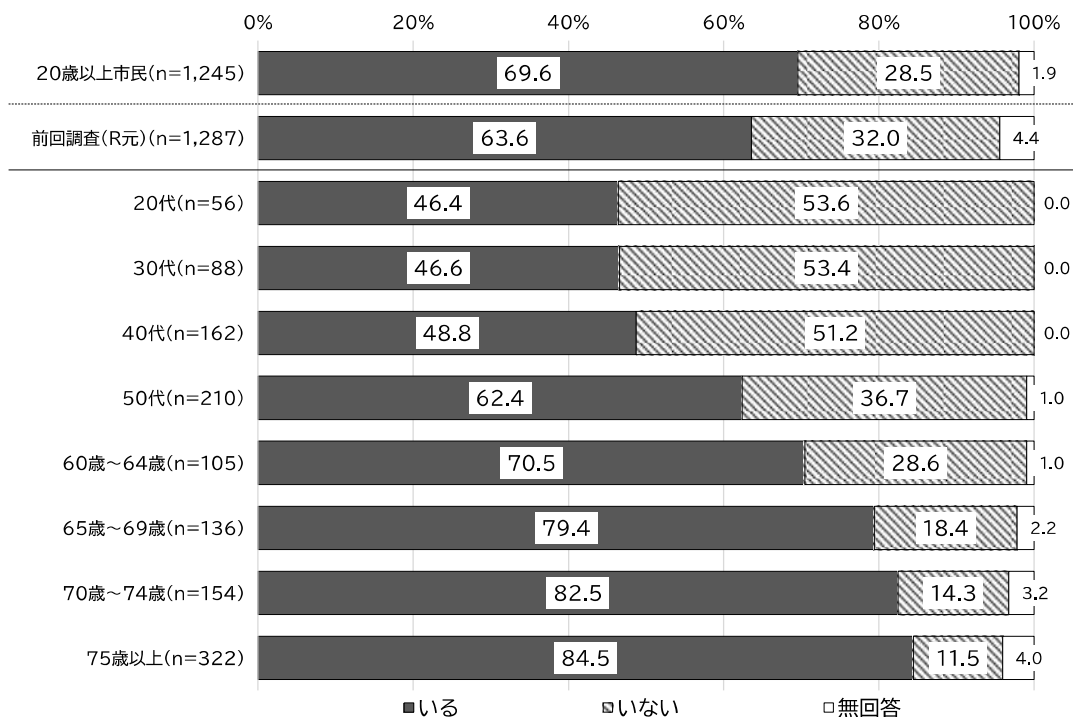
「健康」な状態とはどのようなことかについて、「心身に病気や障害がないこと」の割合が69.1%と最も高く、次いで「快食、快眠、快便であること」が61.4%、「病気や障害の有無とは関係なく、生きがいを持ち、前向きな気持ちであること」が43.2%、「健康診断の結果で異常がないこと」が37.9%、「家族と友人との人間関係が良好なこと」が34.8%、「長生きであること」が16.9%となっています。



4) かかりつけ医の有無 市

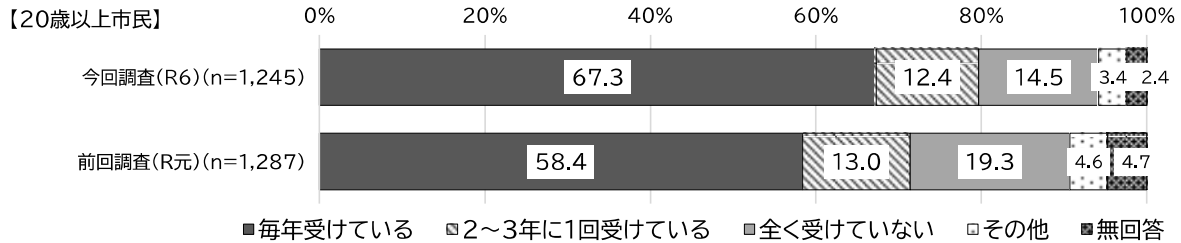
かかりつけ医について、「いる」は69.6%、「いない」は28.5%となっています。

年代別でみると、20代が53.6%、30代が53.4%、40代が51.2%と「いない」の割合が最も高くなっていますが、それ以降の年代では、50代が62.4%、60～64歳が70.5%、65～69歳が79.4%、70～74歳が82.5%、75歳以上が84.5%と「いる」の割合が高くなっており、年齢が上がるほどかかりつけ医がいる傾向となっています。



5) 定期健診の受診 市

定期的な健康診断(がん検診※を除く)について、「毎年受けている」が67.3%、「2～3年に1回受けている」が12.4%、「全く受けていない」が14.5%、となっています。

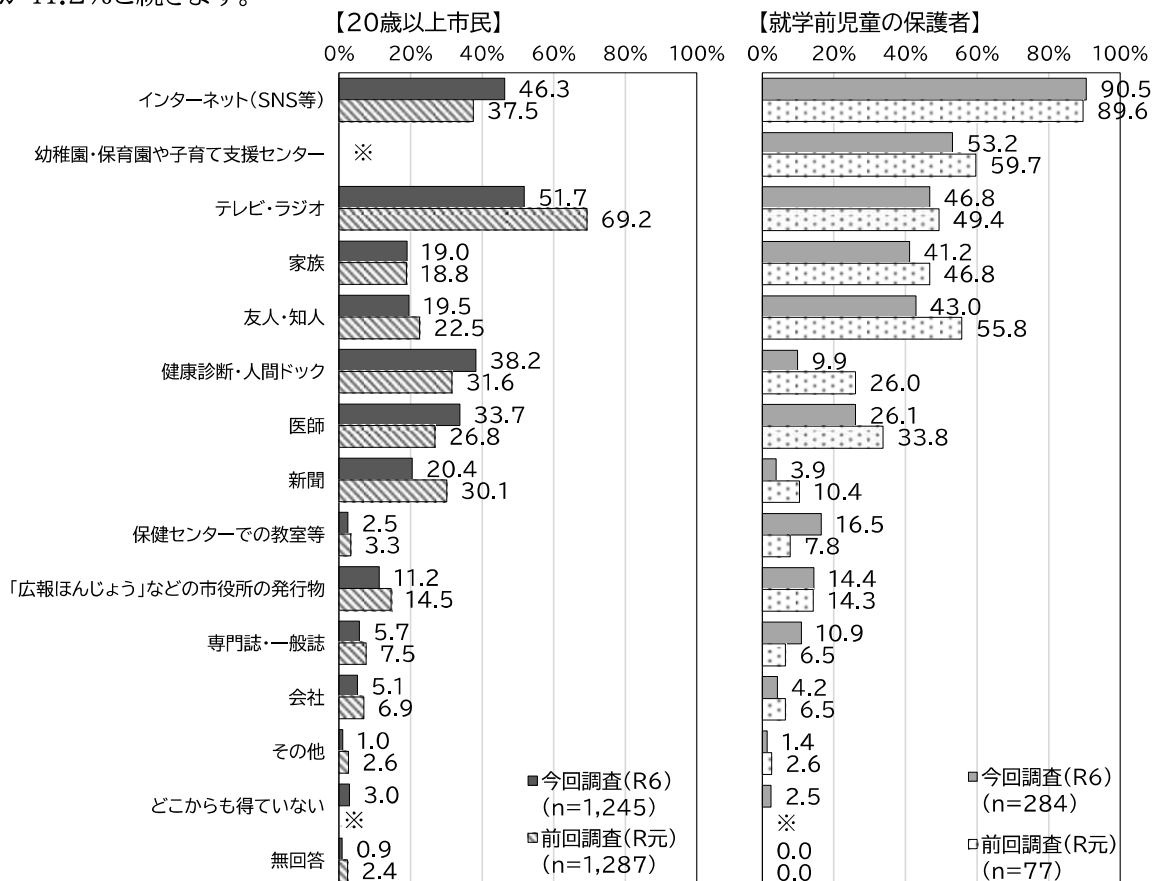


(7) 地域における健幸づくりについて

1) 健康情報の入手先 市保

健康に関する情報の入手先について、20歳以上市民では、「テレビ・ラジオ」の割合が51.7%と最も高く、次いで「インターネット(SNS等)」が46.3%、「健康診断・人間ドック」が38.2%、「医師」が33.7%と続きます。

就学前児童の保護者では、「インターネット(SNSなど)」が90.5%と最も高く、次いで「幼稚園・保育園や子育て支援センター」が53.2%、「テレビ・ラジオ」が46.8%、「友人・知人」が43.0%、「家族」が41.2%と続きます。



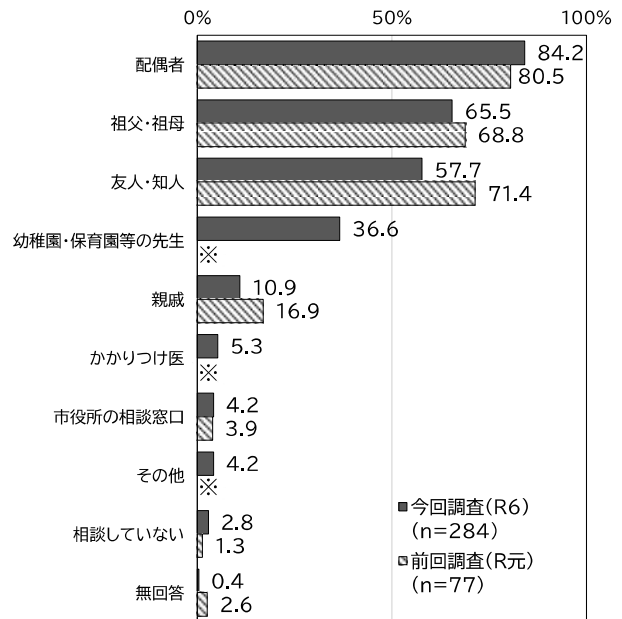
※「幼稚園・保育園や子育て支援センター」は就学前児童の保護者のみの回答選択肢。
「どこからも得ていない」は今回調査のみの回答選択肢。

2) 育児の悩みの相談先 保

就学前児童の保護者が育児の悩みなどを相談する人や場所について、「配偶者」の割合が84.2%と最も高く、次いで「祖父・祖母」が65.5%、「友人・知人」が57.7%、「幼稚園・保育園等の先生」が36.6%と続きます。



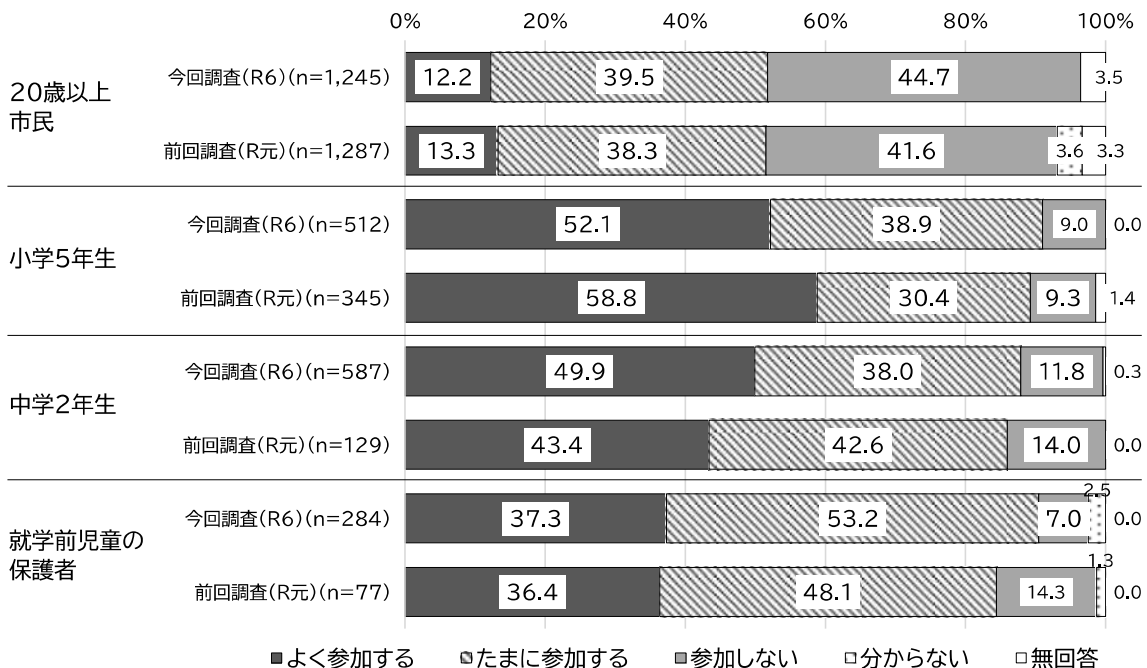
【就学前児童の保護者】



※数値のない項目は、前回の調査において、回答選択肢がなかったもの

3) 地域のまつりや行事の参加の有無 市 小 中 保

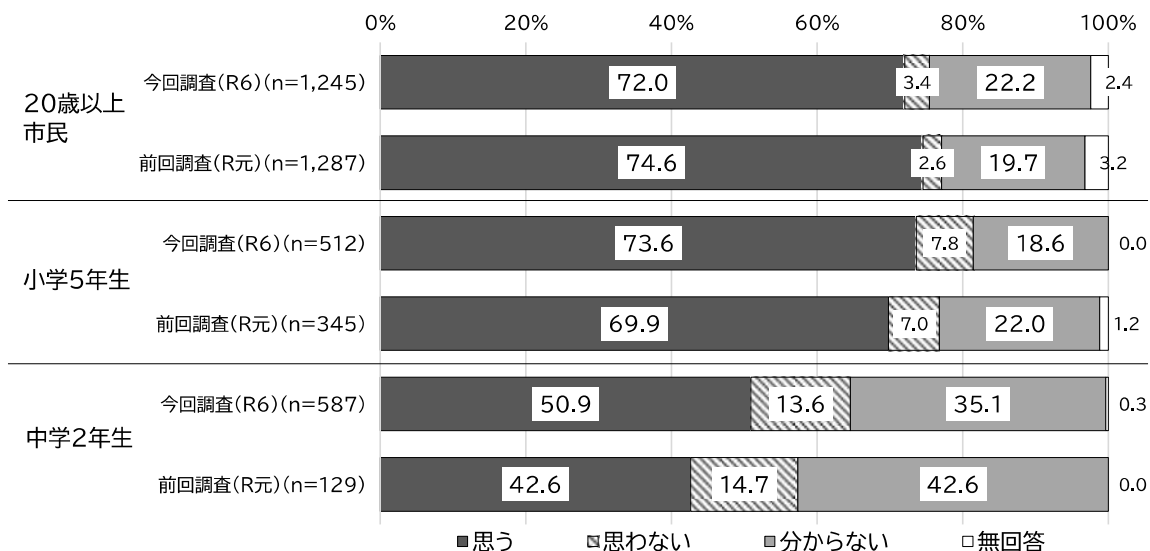
市や地域のお祭り、行事などの参加について、「よく参加する」と「たまに参加する」を合わせた『参加する』の割合は、20歳以上市民は51.7%、小学5年生は91.0%、中学2年生は87.9%、就学前児童の保護者では90.5%となっています。「参加しない」の割合が20歳以上市民では44.7%と他の年代と比べて高くなっています。



※「わからない」は就学前児童の保護者のみの回答選択肢。

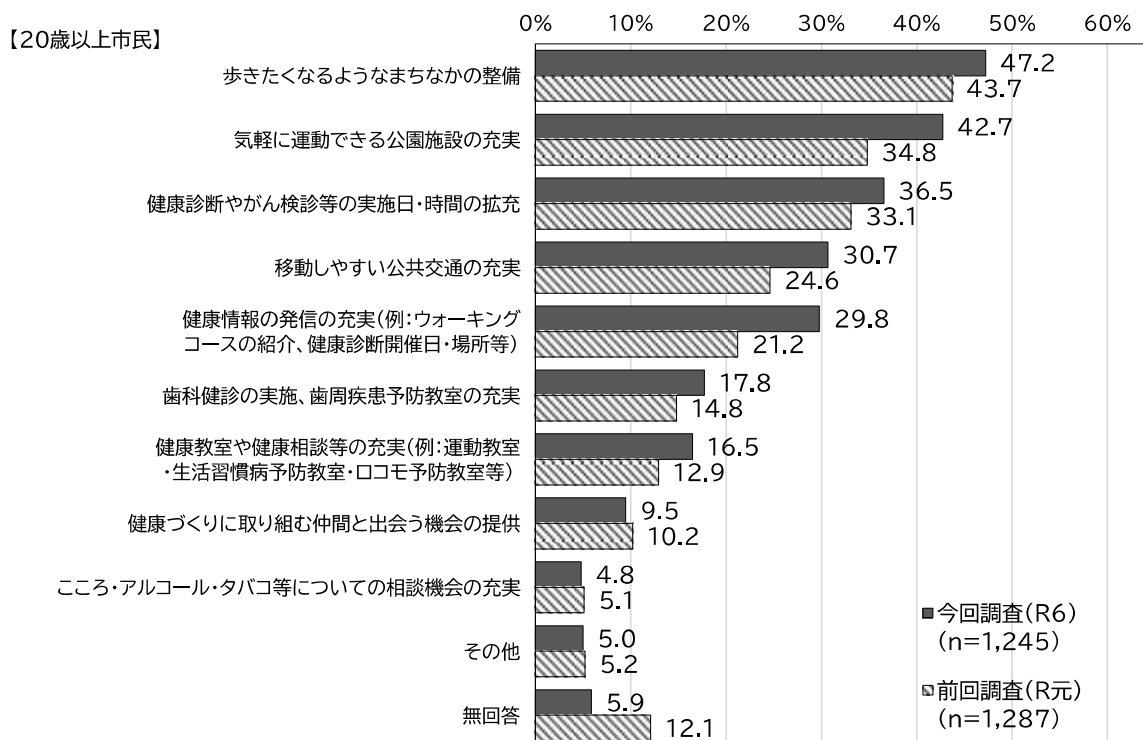
4) 本庄市に住み続けたいか 市小中

本庄市に住み続けたいかについて、20歳以上市民では「思う」の割合は72.0%、「思わない」が3.4%、「わからない」が22.2%となっています。小学5年生では、「思う」が73.6%、「思わない」が7.8%、「わからない」が18.6%となっています。中学2年生では、「思う」が50.9%、「思わない」が13.6%、「わからない」が35.1%となっています。



5) 本市の健康づくりで重点的に取り組むべきもの 市

本市の健康づくりで重点的に取り組むべきものとして、「歩きたくなるようなまちなかの整備」の割合が47.2%と最も高く、次いで「気軽に運動できる公園施設の充実」が42.7%、「健康診断やがん検診等の実施日・時間の拡充」が36.5%、「移動しやすい公共交通の充実」が30.7%、「健康情報の発信の充実(例:ウォーキングコースの紹介、健康診断開催日・場所等)」が29.8%と続きます。



第3節 関係団体ヒアリング調査結果の概要

この調査は、第3期本計画策定のため、健康づくり関連事業を実施している団体に対し、団体の課題や意向を把握し、基礎資料とするために実施しました。

(1) 調査概要

【調査期間】 令和7年3月24日(月)～令和7年4月11日(金)

【調査対象】 健康づくり関連事業を実施している25団体

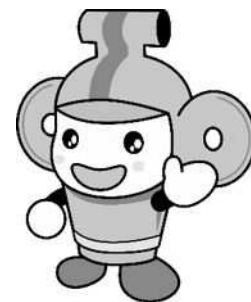
【調査方法】 ヒアリング票を郵送またはインターネットにより送付し、返信用封筒またはインターネットにて回収

【回答数】25団体

(2) 調査結果概要

1) 活動関連分野について(重複回答可能)

- ・身体活動※・運動…10団体(40.0%)
- ・食育(食文化含む)…10団体(40.0%)
- ・食の安全…6団体(24.0%)
- ・地産地消・農業体験交流…5団体(20.0%)
- ・休養・こころの健康…4団体(16.0%)
- ・歯と口腔の健康…4団体(16.0%)
- ・たばこ・アルコール…1団体(4.0%)
- ・生活習慣予防…2団体(8.0%)
- ・こどもの健全育成…15団体(60.0%)
- ・防災…4団体(16.0%)
- ・その他…5団体(20.0%)
- ・健康づくりに関する活動はしていない…2団体(8.0%)



2) 団体の課題等について

(団体の課題等について、健康づくりに関する活動を進めるうえでの課題や問題点をお教えてください。例:活動する場がない、会員に若い人が入らない等)

【主な意見】

- 教育、イベント活動を実施するが、マンネリ化傾向になってしまう。費用面において減少傾向にある
- PTA活動についての理解が年々難しくなっている気がする。意欲的な人もあまり多くなく、さまざまな行事等が縮小していく。
- 体調や交通手段等で参加できる方が限られる(参加者の顔ぶれが同じ)。会員数が減少している。会員との日程が合わないことがある。事業内容の充実度(強度)の調整が課題。
- 全体として、高齢化と会員数減少が深刻な問題となっており、特に若い世代の参加促進と活動場

所の確保が重要な課題。

- 活動する場所や周知が難しい(チラシなどをたのんでも広がらない)。
- 参加者や協力者への周知、なかなか人が集まりづらい。忙しい世代の為、活動にも予算がかかってしまう(材料を買って揃えるため)。

【意見の要約】

団体の多くが、会員の高齢化と若者の参加不足という共通の課題に直面しています。会員数は年々減少し、後継者が見つからないため、活動の継続が難しくなっています。また、活動内容のマンネリ化や、参加者の固定化も問題となっており、新たな参加者を引きつける工夫が求められています。

さらに、活動場所の確保や移動手段の問題、周知不足、人的・財政的資源の不足といった運営上の課題も多く見られます。こうした課題が重なることで、活動が縮小したり中止されたりする例も増えています。

3) 今後の活動の方向について

(健康づくりに関する今後の活動の方向性についてお教えてください。例:会員数、活動状況は現状維持、活動を拡大、活動は縮小等)

【主な意見】

- 現状維持を確保しつつ、若い世代の参加促進と施設充実に注力する方針。
- 若手会員の確保と参加促進を強化し、活気ある活動を維持・拡大すること。
- 体調を崩す会員もあり今後は縮小を考えている。
- 会員の年齢も毎年上がっていくので、活動を継続していくのが難しくなっている。
- 会員数は無理に増やそうとはしない。自然に任せる。
- 活動、運営は近隣ほか団体と連携をとり、交互協力して活動が無くならないようにしていく。
- 同じような活動をされている団体との連携。活動の拡大。

【意見の要約】

多くの団体が、現状維持を基本方針としつつ、可能な範囲での活動の拡大や若年層の参加促進に取り組もうとしています。一部では、会員数の自然減少や高齢化を受けて縮小も視野に入れており、持続可能な活動体制の模索が進められています。

また、地域や行政との連携を重視し、他団体と協力して活動の幅を広げたり、地域全体での協働を目指す動きも見られます。無理な拡大よりも、既存の活動を維持しながら、着実に発展させる方針が多くの団体に共通しています。

4) 行政との協働について

(健康づくりに関する行政との連携や協働を考えたときに必要なことについてお教えてください。例:行政に活動の場を提供してほしい、団体の広報をしてほしい等)

【主な意見】

- 広報協力:行政の広報誌や SNS、公民館などを通じた活動の周知・PR 支援。
- 施設・場所の提供:活動場所の確保や、公共施設の環境整備(例:スポーツ施設や公園の利用)

に関する要望。

- 講師派遣・出前講座：健康や福祉に関する専門講師の紹介や派遣。
- 助成金・補助金の支援：財政面での安定的な支援体制の整備。
- ネットワーク構築支援：地域団体同士や学校・他機関との連携を促進するための橋渡し。
- 意見交換・協働の場の充実：市長などとの対話の機会を増やし、現場の声を施策に反映してもらうこと。
- PTA活動についての理解が年々難しくなっている気がする。意欲的な人もあまり多くなく、さまざまな行事等が縮小していく。

【意見の要約】

多くの団体が、活動の継続・発展のために行政との連携強化を重要視しています。一方で、「行政側に連携の意識が乏しい」「取組が見えづらい」といった不満の声もあり、行政の理解と姿勢の改善を求める声も上がっています。また、団体が担っている社会的な役割や無形の価値(信頼・文化・共感)を行政にも評価してもらいたいという意見もありました。

5) 市民への広報について

(健康づくりの取組を市民に効果的に伝える方法について行っていること、または、してほしいことを教えてください。例：市の広報誌に掲載する、市のホームページでアピールしてもらう等)

【主な意見】

1. 現在行っている主な広報手段
 - ・市の広報誌やホームページの活用について、多くの団体が市の広報媒体を通じた情報発信を実施・依頼。
 - ・会報誌の発行や自治会回覧、チラシ配布について、自主的に作成したパンフレットやポスターを公民館・JA 施設等に掲示。
 - ・イベント出展・地域行事参加について、市や商工会議所主催の祭典(桜まつり、産業祭など)を活用したPR。
 - ・ケーブルテレビ取材や放映の活用について、地域メディアへの露出による認知度向上。
2. 今後望まれている広報支援
 - ・広報の場の拡充について、掲示場所の確保、市役所ホールや市民活動交流センターでの定期的PRスペース提供。
 - ・デジタル広報の推進について、ホームページ、SNS、LINE などネット媒体の活用強化。
 - ・ユニークな広報コンテンツの導入について、野菜の保存法や健康レシピをエッセイ風に紹介するなどの工夫を希望。
 - ・ターゲットごとの発信の工夫について、子育て世代などにはネット中心の発信が効果的という指摘。
 - ・市民の関心を引く話題性のある情報提供について、行政のトップ(市長)参加のイベントをもっと話題化してほしいという声。

【意見の要約】

多くの団体が、活動の認知度向上や参加者・会員の確保のために、広報活動の強化を重視しています。市民への情報発信は多様な手段が活用されていますが、より効果的かつ継続的な広報支援と広報の場の充実が求められています。

6) その他

(その他、ご意見がございましたらお聞かせください。)

【主な意見】

- 皆で共有できるような携帯アプリ等を使い、ポイント制度や特典があるようなシステム作りができると良いと思います。
- 「健康づくり」というのがざっくりしてわかりにくかったです。心・身体・体力等々、生活に必要な事という認識で合っているのかわかりません。
- 健康づくりの推進に向けた予算増加を希望します。市内大会だけでなく、県主催の大会を誘致し、ソフトボールの普及を促進すること、体操競技専用体育館の確保すること、指導者の育成をすること、活動者が増加することが課題です。市民の健康・体力向上のため、役員一丸となって取り組みたいとおもいます。
- 現代の豊かで便利な社会の中で、子ども達の生活様式が大きく変化し、その弊害が顕在化しています。しかし、残念ながら社会全体がその問題に気付いていないのが現状です。特に就学前の生命的な体験学習が不足していることが大きな問題だと考えています。これに関して新しい乳幼児教育の重要性を社会全体で認識し、取り組む必要があります。より効果的な教育プログラムを進めることが求められるのではないのでしょうか。
- 子どもたちの体力低下が問題となっており、市民全体でこの課題を共有し、改善策を講じる必要があります。・学校・保育現場での取組・家庭での働きかけ・地域ぐるみの環境づくり・行政の支援・仕組みづくり
- 学校、家庭、地域、行政が一体となり、子どもたちが健やかに成長できる環境を整えることが求められています。
- 支援センター等で活動していると、本庄市民以外の方が多く利用している理由を聞くと、内容が充実している、おもちゃがキレイなどとほめてくれています。これも20年以上やっていて、この2～3年のことです。
- 社会参加がしにくい人たちの居場所を提供する活動なので、とりたてた取組は行っておらず、まず、家から出る、他人と合う、そうしたことでコミュニケーションに慣れ、心の健康を取り戻すよう考えています。
- 運動と食べ物が健康のベースと考えています。
- 本当に困っている人達へ伝えていきたいですね。
- こどもの居場所づくりを通して子ども達の心身の健康づくりに取り組んでいます。そのような居場所を増やしていくよう務めています。

【意見の要約】

各団体からは、健康づくりやこどもの成長支援、地域での居場所づくりに関する課題や提案が寄せられました。健康づくりに関しては、明確な定義や仕組みづくりの必要性が指摘され、こどもの体力低下や体験不足への対応として、家庭・学校・地域・行政の連携が求められています。また、社会参加が難しい人への支援として、安心できる居場所づくりの重要性が挙げられました。全体として、生活に根ざした支援の充実と、それを支える制度や広報の工夫が必要とされています。

第4節 前計画の評価

(1) 成果指標

第2期本計画の評価指標及び達成状況については以下の3段階で評価を行いました。

- ：目標値を達成している
- △：目標値は未達成だが、策定時から改善している
- ×：目標値未達成

1 食生活

評価指標	対象	計画策定時 令和元年 (2019)	目標値 令和6年 (2024)	現状値 令和6年 (2024)	達成 状況
食育への関心がある人の割合の増加 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	20歳以上	60.8%	90.0%	62.5%	△
朝食を欠食する人の割合の減少 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	小学生	2.0%	1.0%	1.4%	△
	中学生	3.9%	2.0%	4.1%	×
	20歳代男性	23.3%	15%以下	29.2%	×
	30歳代男性	14.7%	10%以下	15.2%	×
主食・主菜・副菜*の揃った食事を日に2回以上 食べているのがほぼ毎日の人の割合の増加 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	20歳以上	43.0%	80.0%	58.6%	△
1日の野菜摂取量の増加 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	20歳以上	258g	350g	224.5g	×
食中毒予防の3原則*を知っている人の割合の増加 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	20歳以上	38.2%	90.0%	44.5%	△
朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の 回数の増加〔健康づくりに関するアンケート調査〕	20歳以上	週10.2回	週10回以上 維持	週8.5回	×
郷土料理「つみっこ」を知っている児童・生徒の 割合の増加〔健康づくりに関するアンケート調査〕	小学生	85.5%	90.0%	85.6%	△
	中学生	96.9%	98.0%	89.1%	×
地元産の食材を学校給食に使用する割合の増加 〔教育総務課・本庄上里学校給食組合算出〕	中学校(児玉地域)	40.5%	50.0%	16.0%	×
	給食センター管内 (小・中学生)	25.7%	30.0%	25.4%	×
本庄市産農産物を意識して購入している人の割合 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	20歳以上	70.5%	78.0%	68.1%	×
田んぼや畑での農作業体験のある児童・生徒 の割合の増加〔健康づくりに関するアンケート調査〕	小学生	89.9%	98.0%	83.4%	×
	中学生	88.4%	90.0%	84.2%	×

2 身体活動・運動

評価指標	対象	計画策定時 令和元年 (2019)	目標値 令和6年 (2024)	現状値 令和6年 (2024)	達成 状況
運動習慣のある人の割合の増加(1日30分以上 の運動・スポーツを週2回以上、1年以上継続 している人の増加) 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	20～64歳男性	16.9%	40.0%	28.8%	△
	20～64歳女性	14.8%	40.0%	18.3%	△
	65歳以上男性	29.4%	67.0%	34.1%	△
	65歳以上女性	28.9%	60.0%	34.1%	△
運動やスポーツを習慣的にしているこどもの 割合の増加(週3日以上) 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	小学5年生男子	70.4%	75.0%	61.6%	×
	小学5年生女子	51.4%	53.0%	48.3%	×
日常生活における歩数の増加 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	20～64歳男性	5,272歩	9,000歩	5,316歩	△
	20～64歳女性	5,241歩	8,500歩	4,922歩	×
	65歳以上男性	4,872歩	7,000歩	4,155歩	×
	65歳以上女性	3,558歩	6,000歩	3,290歩	×
はにぼん筋力トレーニング*をしている人の増加 〔高齢者福祉課算出〕	参加者数(延べ人数)	47,413人	48,300人	34,833人	×

3 休養・こころの健康

評価指標	対象	計画策定時 令和元年 (2019)	目標値 令和6年 (2024)	現状値 令和6年 (2024)	達成 状況
睡眠による休養が十分にとれていない人の割合の減少 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	20歳以上	21.6%	15.0%	23.1%	×
ゲートキーパー※の増加 〔健康推進課算出〕	20歳以上	433人	500人	632人	○

4 歯と口腔の健康

評価指標	対象	計画策定時 令和元年 (2019)	目標値 令和6年 (2024)	現状値 令和6年 (2024)	達成 状況
むし歯のない幼児の割合の増加 〔埼玉県歯科保健サービス状況調査〕	3歳児	88.8%	90.0%	93.4%	○
1人平均むし歯数の減少 〔学校教育課算出〕	12歳児	1.12本	1本未満	0.36本	○
過去1年間に歯科診療を受けている人の割合の増加 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	20歳以上	52.5%	65.0%	51.2%	×
かかりつけ歯科医を持っている人の割合の増加 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	20歳以上	74.4%	80.0%	76.5%	△
20本以上歯がある人の割合の増加 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	60歳以上	61.4%	70.0%	58.2%	×
	70歳以上	46.0%	50.0%	49.6%	△

5 アルコール・たばこ

評価指標	対象	計画策定時 令和元年 (2019)	目標値 令和6年 (2024)	現状値 令和6年 (2024)	達成 状況
生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている人の割合の減少 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	20歳以上男性	32.0%	13.0%	29.3%	△
	20歳以上女性	15.4%	6.4%	20.6%	×
受動喫煙者の割合の減少 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	20歳以上	49.4%	減少	38.6%	○
	小学生	53.3%		40.0%	○
	中学生	61.2%		45.6%	○
COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度の向上 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	20歳以上	35.6%	80.0%	30.8%	×
市内公共施設の禁煙・分煙について十分と感じる人の割合の増加 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	20歳以上	18.2%	40.0%	18.8%	△

6 健康管理

評価指標	対象	計画策定時 令和元年 (2019)	目標値 令和6年 (2024)	現状値 令和6年 (2024)	達成 状況
BMI※が25以上の肥満者の割合の減少 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	20歳代～60歳代男性	33.0%	28.0%	28.6%	△
	40歳代～60歳代女性	17.5%	15.0%	13.2%	○
	30歳代男性	41.4%	28.0%	33.3%	△
女性のやせ(BMIが18.5未満)の割合の減少 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	20歳代女性	22.8%	20%未満を 維持	18.8%	○
	30歳代女性	8.6%		18.9%	○
肥満傾向にあるこどもの割合の減少 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	小学5年生男子	16.5%	12.0%	16.4%	△
	小学5年生女子	8.2%	8.0%	7.9%	○
低栄養傾向(BMI20以下)の高齢者の増加の抑制 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	高齢者(65歳以上)	18.1%	17%未満を 維持	20.6%	×

評価指標	対象	計画策定時 令和元年 (2019)	目標値 令和6年 (2024)	現状値 令和6年 (2024)	達成 状況	
全出生数中の低出生体重児の割合の減少 〔埼玉県地域別健康情報〕	新生児	9.6%	減少	12.1%	×	
特定健康診査受診率の向上 〔埼玉県地域別健康情報〕	40～74歳	34.0%	60.0%	36.5%	△	
75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少 〔健康指標総合ソフト〕	75歳未満	84.8人	73.9人	68.2人	○	
脳血管疾患・虚血性心疾患の年齢調整死亡率の減少(10万人あたり) 〔SMR算出ソフト「スマール君」〕	脳血管疾患 男性	48.3人	41.6人	44.0人	△	
	脳血管疾患 女性	27.0人	24.7人	24.2人	○	
	虚血性心疾患 男性	50.5人	31.8人	54.8人	×	
	虚血性心疾患 女性	23.9人	13.7人	17.9人	△	
がん検診受診率の向上 〔埼玉県地域別健康情報・保健センター事業概要〕	胃がん検診	40歳以上男女	13.7%	40.0%	10.6%	×
	肺がん検診	40歳以上男女	18.4%	40.0%	9.7%	×
	大腸がん検診	40歳以上男女	18.7%	40.0%	11.1%	×
	乳がん検診	40歳以上女性	22.4%	50.0%	13.8%	×
	子宮がん検診	20歳以上女性	26.4%	50.0%	15.1%	×
	前立腺がん検診	40歳以上男性	26.6%	40.0%	10.8%	×
65歳以上健康寿命* 〔埼玉県地域別健康情報〕	男性	17.18年	17.3年	17.5年	○	
	女性	20.26年	21.0年	21.0年	○	

7 地域における健幸づくり

評価指標	計画策定時 令和元年 (2019)	目標値 令和6年 (2024)	現状値 令和6年 (2024)	達成 状況	
健康づくりに関する地区組織活動 に参加する人の数 〔健康推進課算出〕	食生活改善推進員*数	77人	85人	56人	×
	健幸アンバサダー*数	—	400人	251人	×
	サポーター養成講座の受講者数	1,688人	2,250人	1,337人	×
本庄ウォーキングマップの認知度 〔健康づくりに関するアンケート調査〕	35.7%	40.0%	37.9%	△	

(2) 第2期本計画の進捗成果と今後の課題

第2期本計画(令和3年3月策定)の進捗を測る指標判定結果は、全69項目中、「○:目標値を達成している」が14項目(20.3%)です。これに「△:目標値は未達成だが、策定時から、改善している」の21項目(30.4%)を加えると合計35項目(50.7%)となっています。約半数を超えており、全体では一定の成果が上がっています。

この内容を見ますと「1 食生活～7 地域における健幸づくり」までの施策分野ごとでは、「1 食生活」、「2 身体活動・運動」、「7 地域における健幸づくり」の3つの施策分野で、「○:目標値を達成している」が総じて低く、指標数としては、ゼロとなっています。

また、市が実施している各課事業の進捗評価は、ほぼ全ての事業が順調に実施されていると評価されていますが、成果指標に改善値として表れていない現状となっています。これは、市の各課事業が市民の健康づくりに対する意識、関心まで浸透していない状況にあることが一つの原因として考えられます。

今後の課題としては、市民、健康づくり関連団体、関係機関、行政等とさらなる幅広い協働・連携や広報・啓発活動を行い、市民が、自主的な健康づくりへの関心を高められる環境づくりが求められています。